

# 中央研究報告

保育士養成研究所 副所長  
小原 敏郎

2019年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業

# 指定保育士養成施設卒業者の内定先等に関する調査研究

保育士養成研究所副所長・共立女子大学  
小原 敏郎

# 調査の概要

## 1、指定保育士養成施設で実施しているキャリア支援等に関する調査

### (指定保育士養成施設調査)

#### ① 質問紙調査

就職内定状況、キャリア支援の方針、リカレント教育や地域連携を含む養成施設による保育人材確保の取り組み等の実態

#### ② インタビュー調査

養成施設のキャリア支援及び保育人材確保への取り組みの先進事例等

## 2、指定保育士養成校施設卒業者の内定先等に関する調査

### (学生調査)

#### ① 質問紙調査

当該学生の入学動機、進路選択の過程及び結果及びその理由や養成施設のキャリア支援等のあり方

#### ② インタビュー調査

当該学生の入学動機、進路選択の過程及び結果及びその理由や養成施設のキャリア支援等のあり方について、個別具体的な過程等

養成校の卒業年度の学生と養成校を対象として、学生のキャリア選択や養成校のキャリア支援の実態を明らかにすることにより、養成施設における質の高い人材の確保と就業継続への取り組みを促す

指定保育士養成施設で実施しているキャリア支援等に関する調査  
(指定保育士養成施設調査)

## 質問紙調査の目的・方法

### 調査の目的

指定保育士養成施設における就職支援、キャリア支援の現状について調べ、保育人材確保の取り組み等の実態について明らかにすることをめざすものである。

### 調査の方法

#### ① 調査対象者

全指定保育士養成施設688 施設のうち393 施設から回答を得た（回収率：57.1%）。

#### ② 調査時期

2019年12月

#### ③ 調査方法と手続き

郵送法。就職支援、キャリア支援を担当する職員に回答を依頼した。

## 調査内容

### <フェイスシート>

回答者、学校種別、取得可能資格・免許、入学定員、卒業要件、気風、卒業生の資格・免許取得状況など

### <保育職に関するキャリア支援体制>

専門担当者の有無、就職ガイダンス、求人情報の開示方法など

### <就職状況>

平成26年度及び平成30年度業種別就職者、保育士志望学生数、保育士志望学生の特徴など

### <既卒者に対するキャリア支援活動>

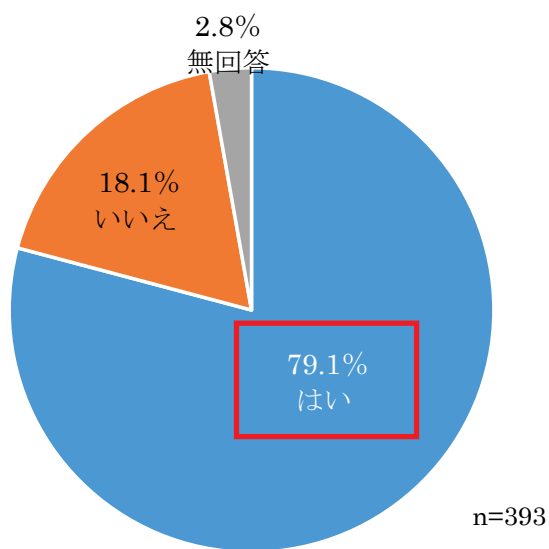
既卒者に対するキャリア支援活動の有無、既卒者に対するキャリア支援活動の内容など

### <キャリア支援の方針>

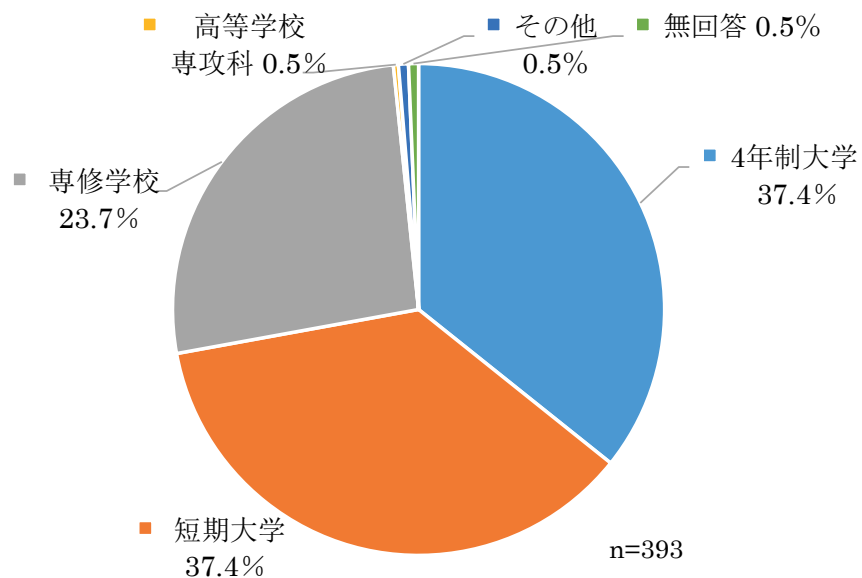
キャリア支援の内容・時期・基本的な考え方、キャリア支援の特色や工夫している点、課題（自由記述）、学校全体で行っているキャリア支援の方針など

# 調査の結果

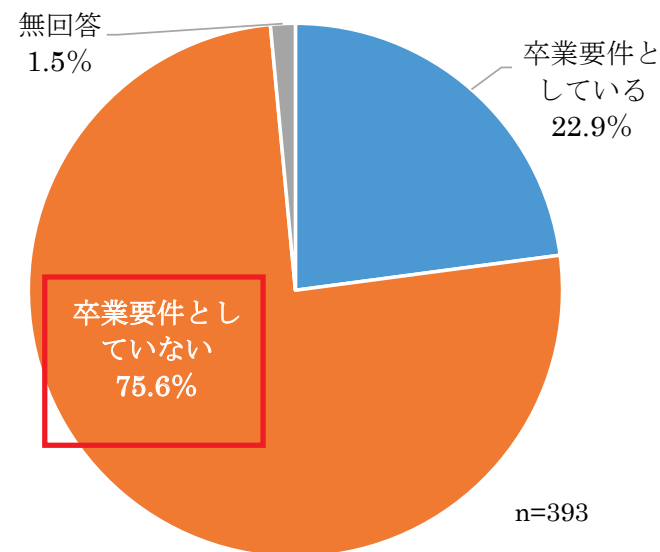
# 回答者の属性・学校種別・保育士資格の卒業要件の有無



回答者の属性：就職やキャリア支援を担当する部署の職員かどうか



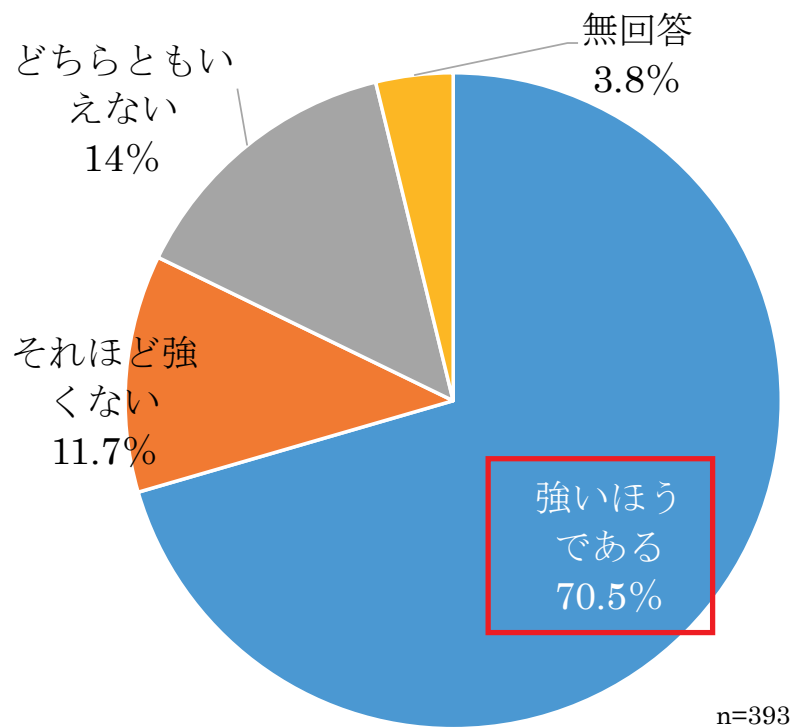
学校種別



保育士資格を卒業要件としているかどうか



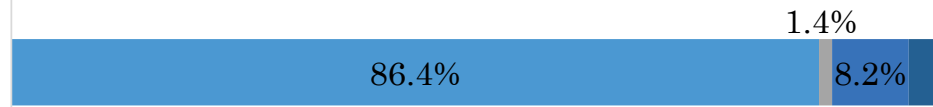
# 保育士として就職をする気風の強さ



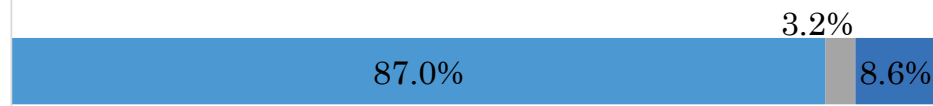
1 4年制大学



2 短期大学



3 専修学校



4 高等学校専攻科



5 その他



6 無回答



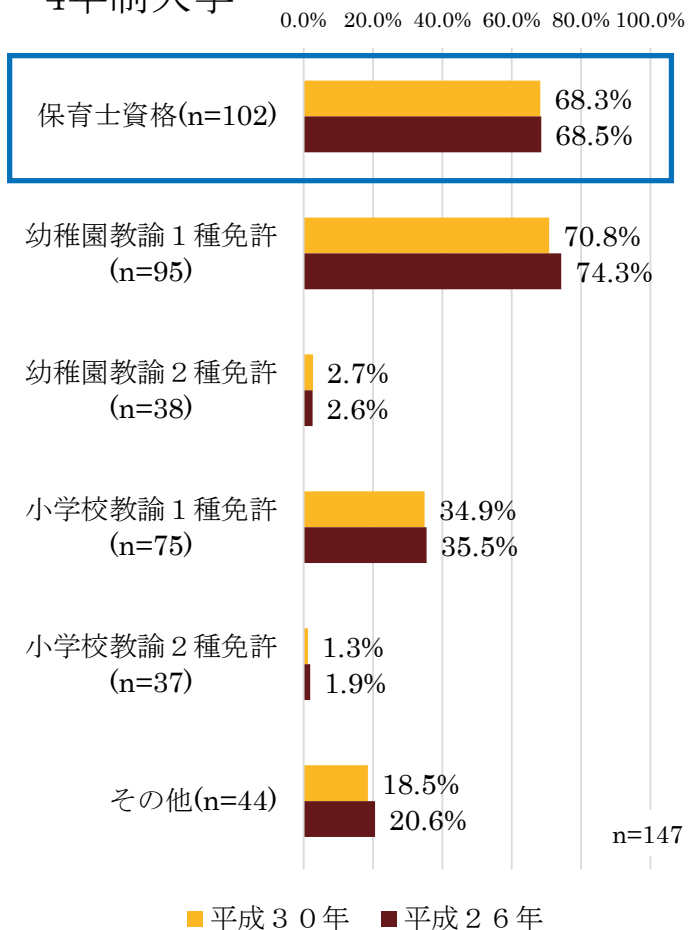
■ 1 強いほうである  
■ 3 どちらともいえない

「それほど強くない」「どちらともいえない」が多い

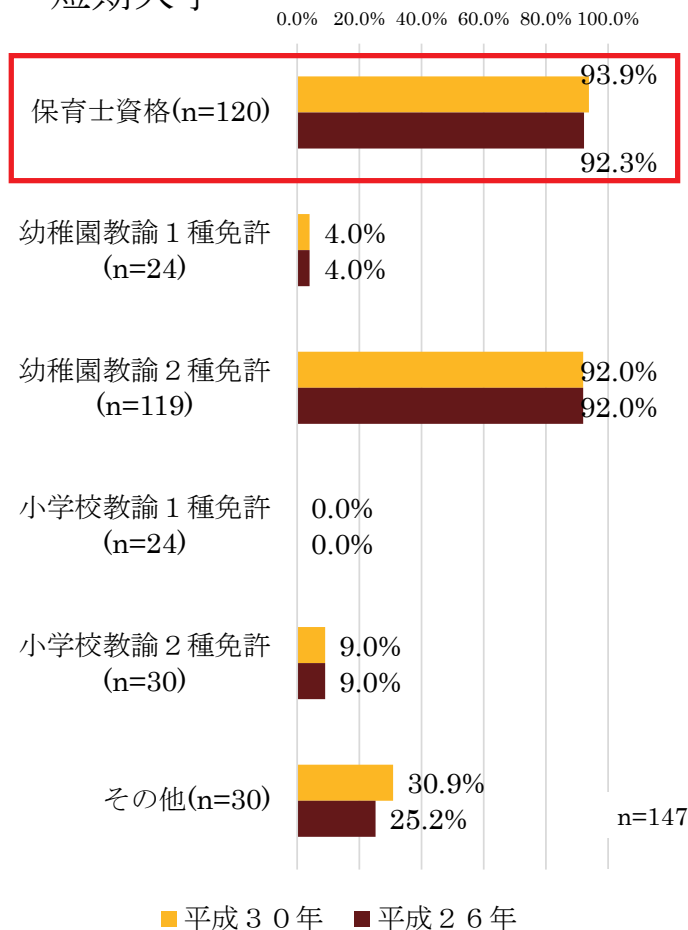
■ 2 それほど強くない  
■ 4 無回答

# 学校種別に見た平成30年度と平成26年度の卒業生の資格・免許取得状況

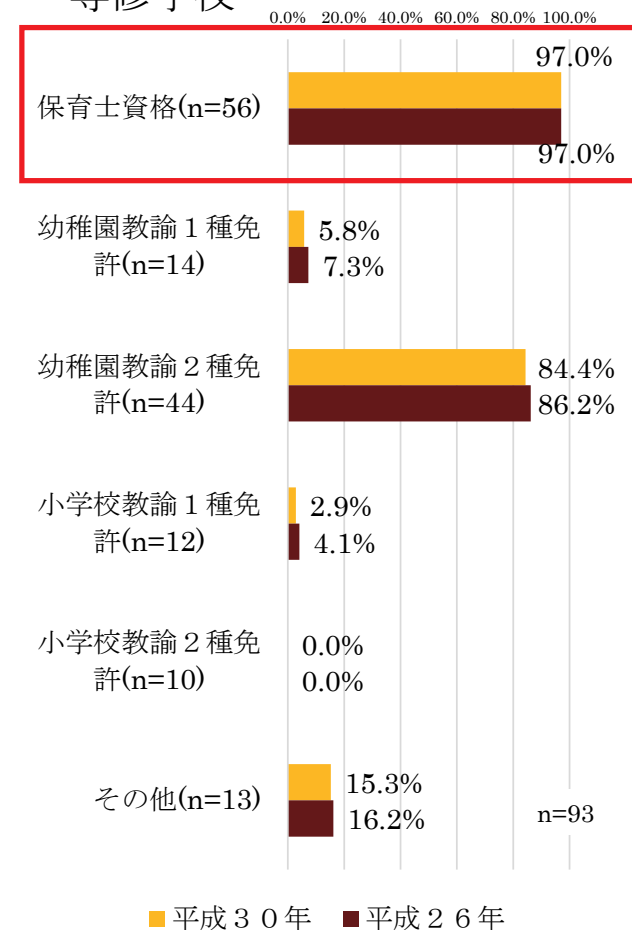
## 4年制大学



## 短期大学



## 専修学校

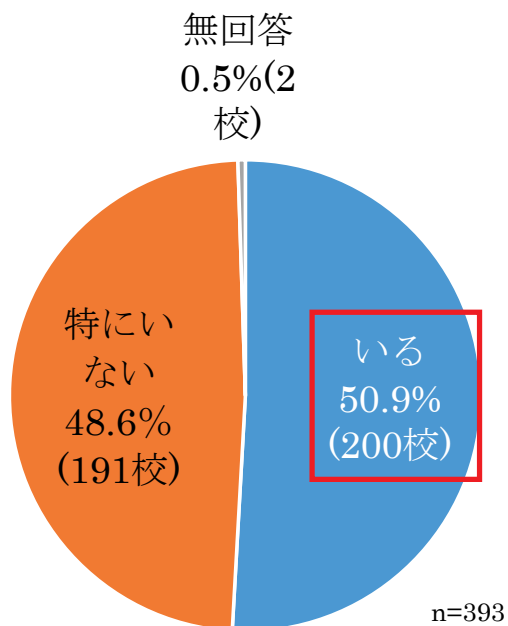


## 養成施設の就職状況について

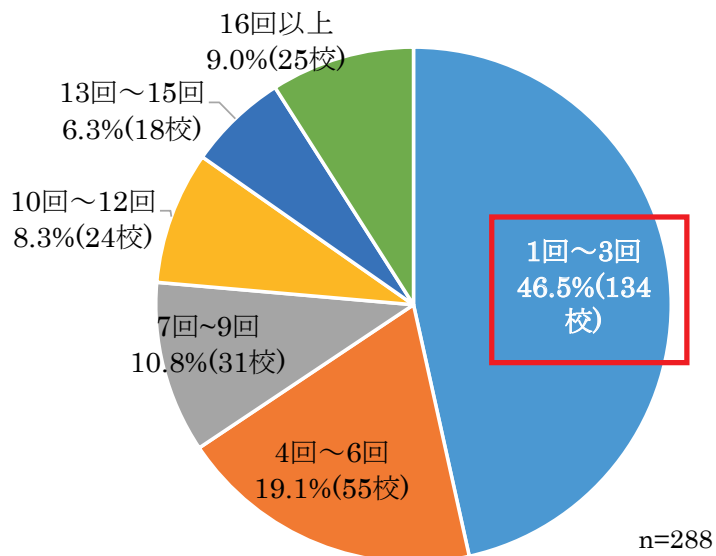
年度	種別	全体	学校の規模（卒業見込者・卒業生の合計人数）					学校種別		
			29人以下 (N=57)	30人～49人 (N=57)	50人～99人 (N=118)	100人～ 149人 (N=70)	150人以上 (N=38)	4年制大学 (N=132)	短期大学 (N=130)	専修学校 (N=77)
			平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値
平成30年度	保育所	39.1%↓	45.0%	39.6%	38.0%	38.7%	34.9%↓	26.9%	44.7%↓	50.8%
平成26年度		42.7%	43.0%	44.9%	43.6%	42.4%	40.5%	28.6%	51.1%	50.9%
平成30年度	幼稚園	12.3%↓	10.0%	8.5%	12.8%	16.1%	12.7%	10.4%↓	13.9%↓	12.8%
平成26年度		17.2%	13.7%	12.0%	16.6%	21.4%	20.9%	16.1%	19.6%	13.9%
平成30年度	認定こども園	13.2%↑	11.8%	14.6%	12.9%	13.8%	12.9%	8.1%↑	18.0%↑	14.0%↑
平成26年度		4.2%	7.6%	2.8%	3.7%	5.3%	3.2%	2.8%	4.8%	5.7%
平成30年度	一般企業	10.1%↑	6.4%	11.8%	10.8%	9.8%	11.6%	19.7%↑	5.1%	2.3%
平成26年度		9.0%	4.8%	10.4%	10.3%	8.6%	8.5%	17.1%	5.2%	2.2%

平成26年度と平成30年度の業種別就職者の割合の比較

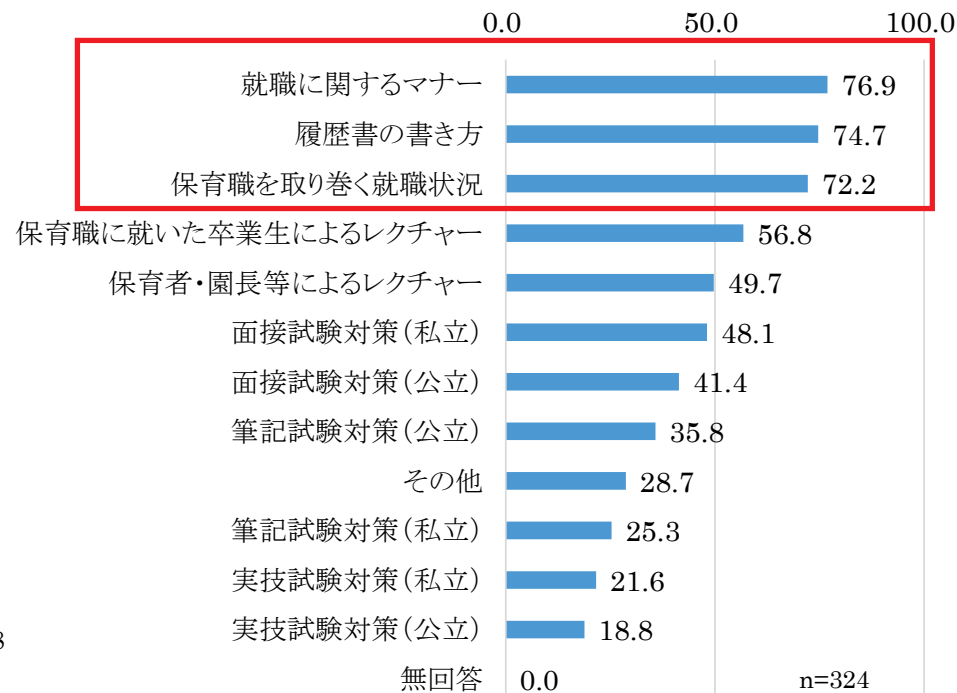
# 保育職に関するキャリア支援体制



保育職の就職支援専門担当者の有無

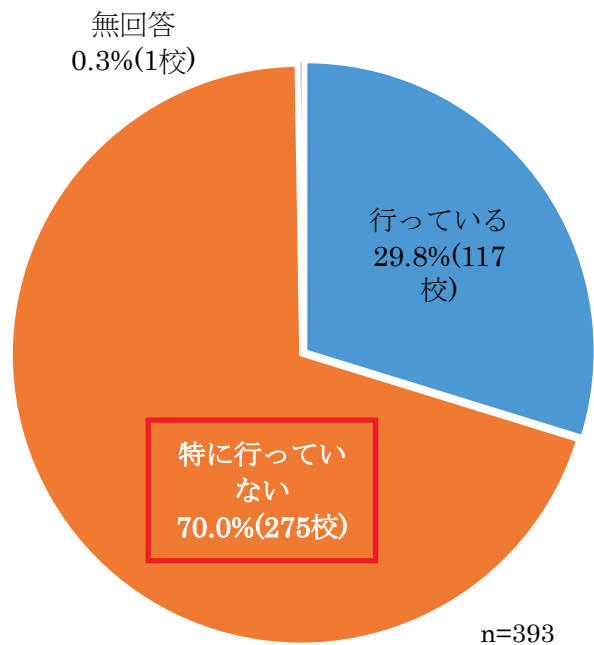


保育職希望の学生に対する学校独自の就職ガイダンスの回数

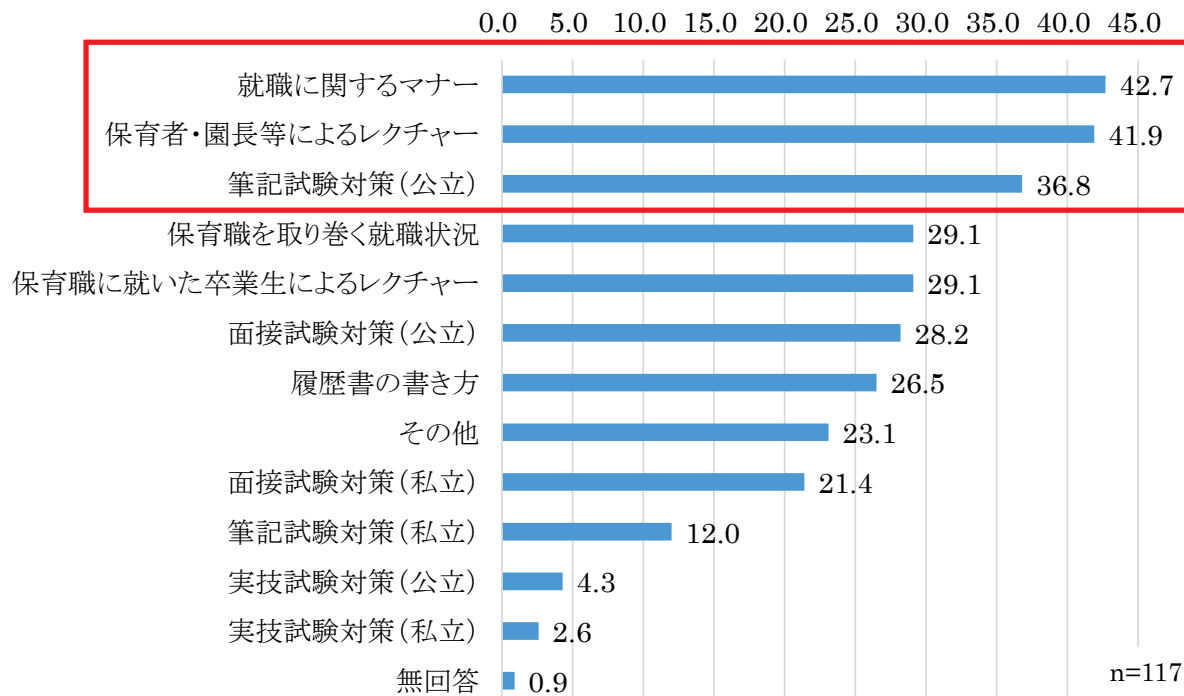


保育職希望の学生に対する学校独自の就職ガイダンスの内容

# 保育職に関するキャリア支援体制

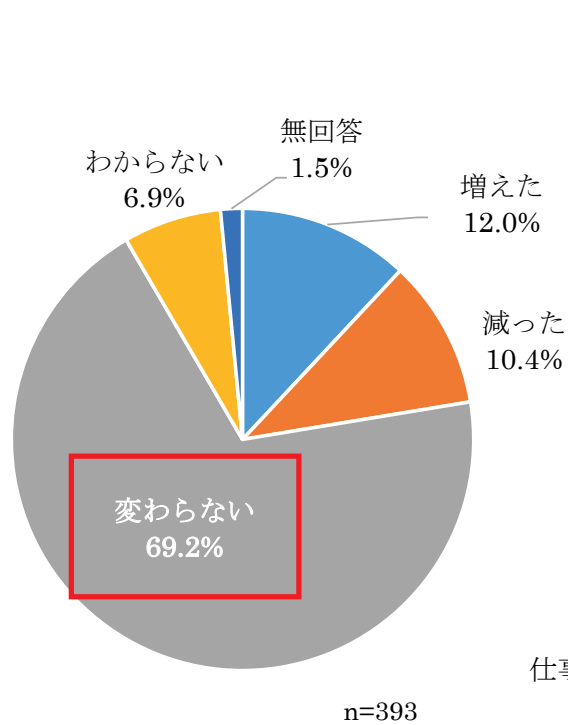


外部委託の就職ガイダンス

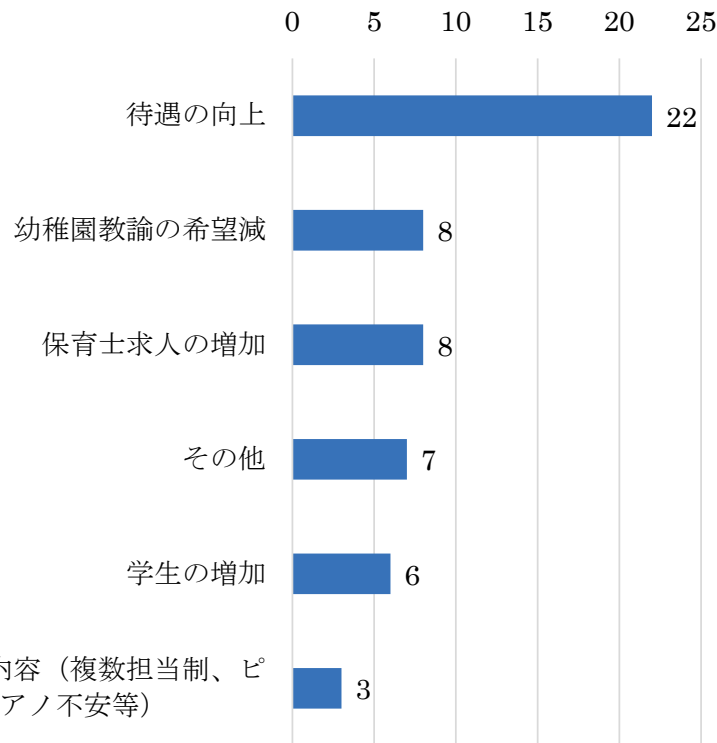


外部委託の就職ガイダンスの内容

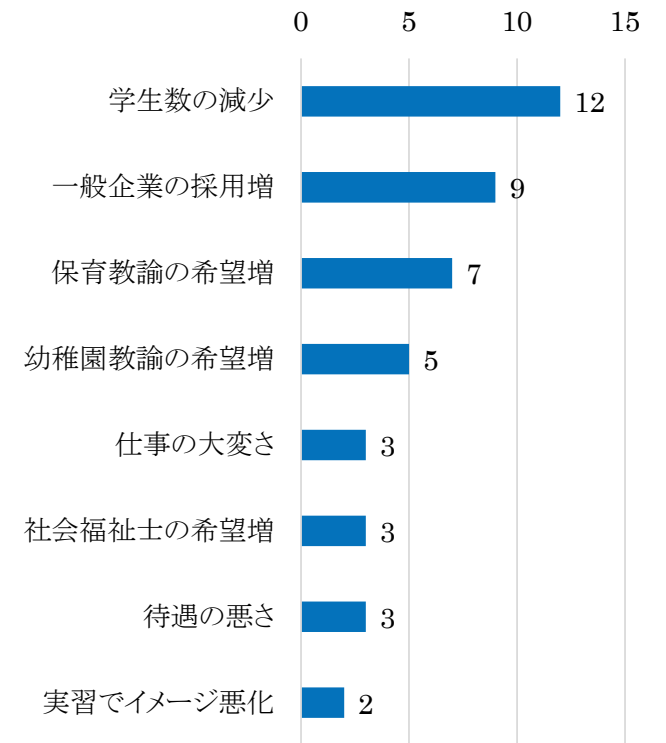
# 養成施設の就職状況について



保育士として就職を希望する学生の人数

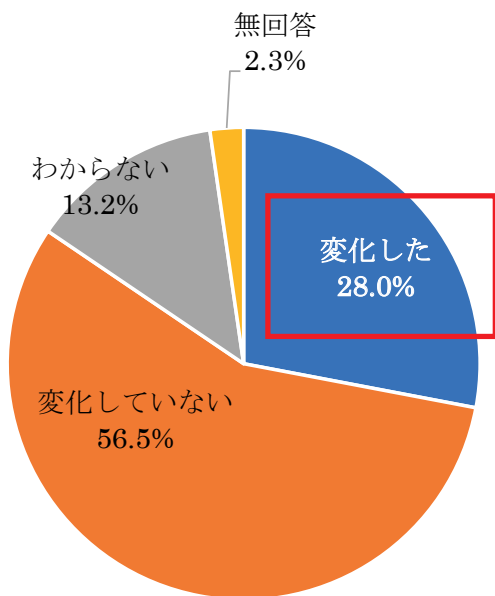


保育士就職希望増の理由 (自由記述を分類)

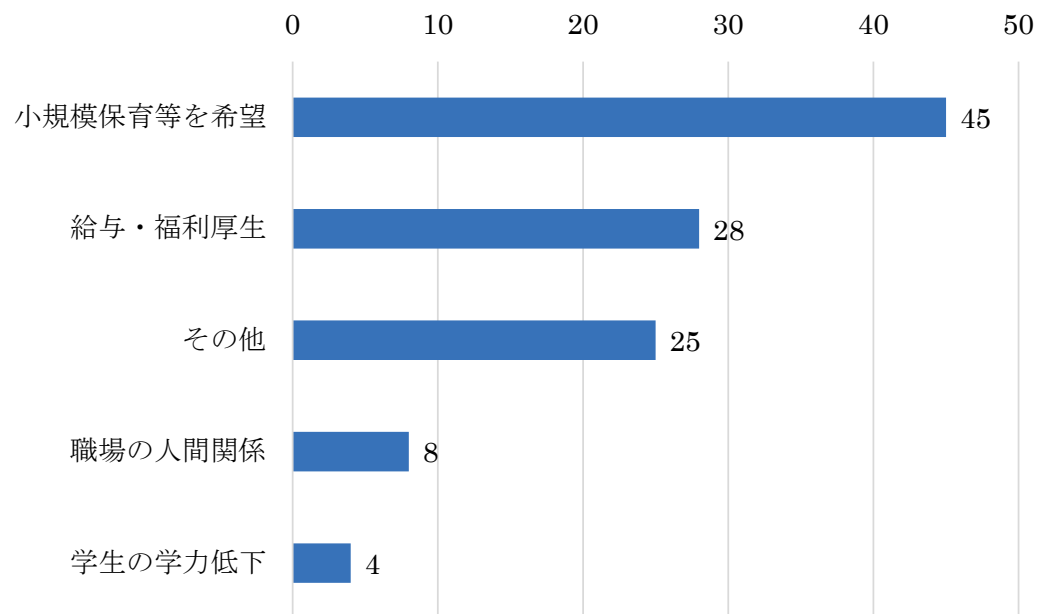


保育士就職希望者減の理由 (自由記述を分類)

## 養成施設の就職状況について

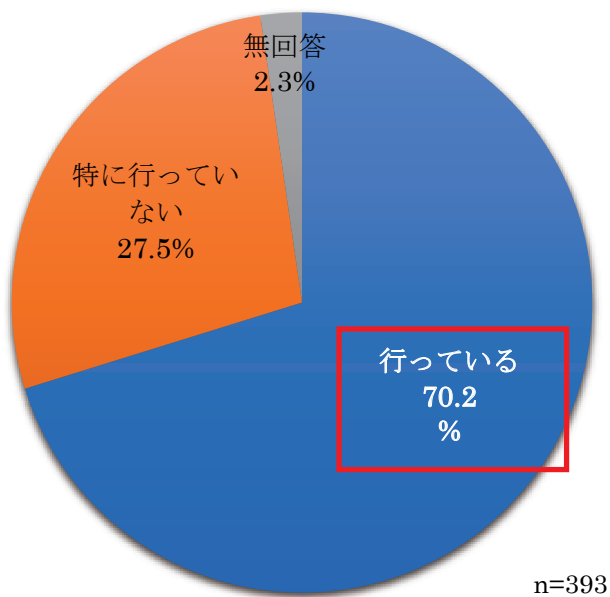


保育士就職希望学生の特徴等の変化

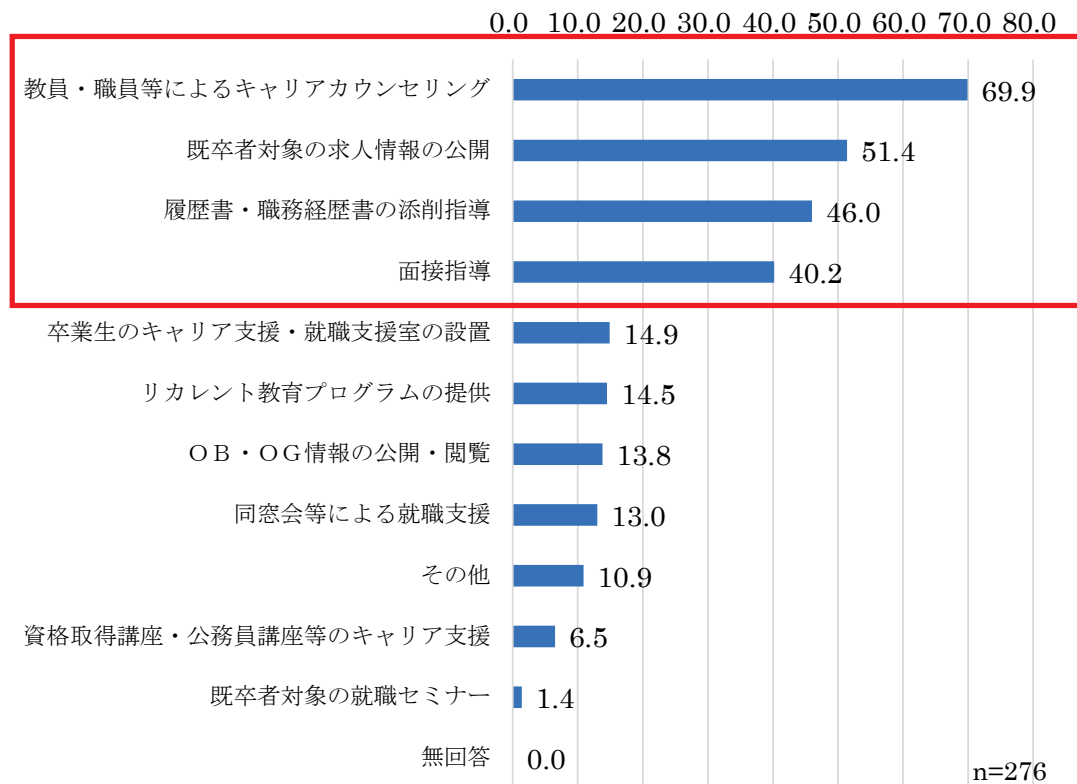


具体的な学生の変化（自由記述を分類）

# 既卒者へキャリア支援



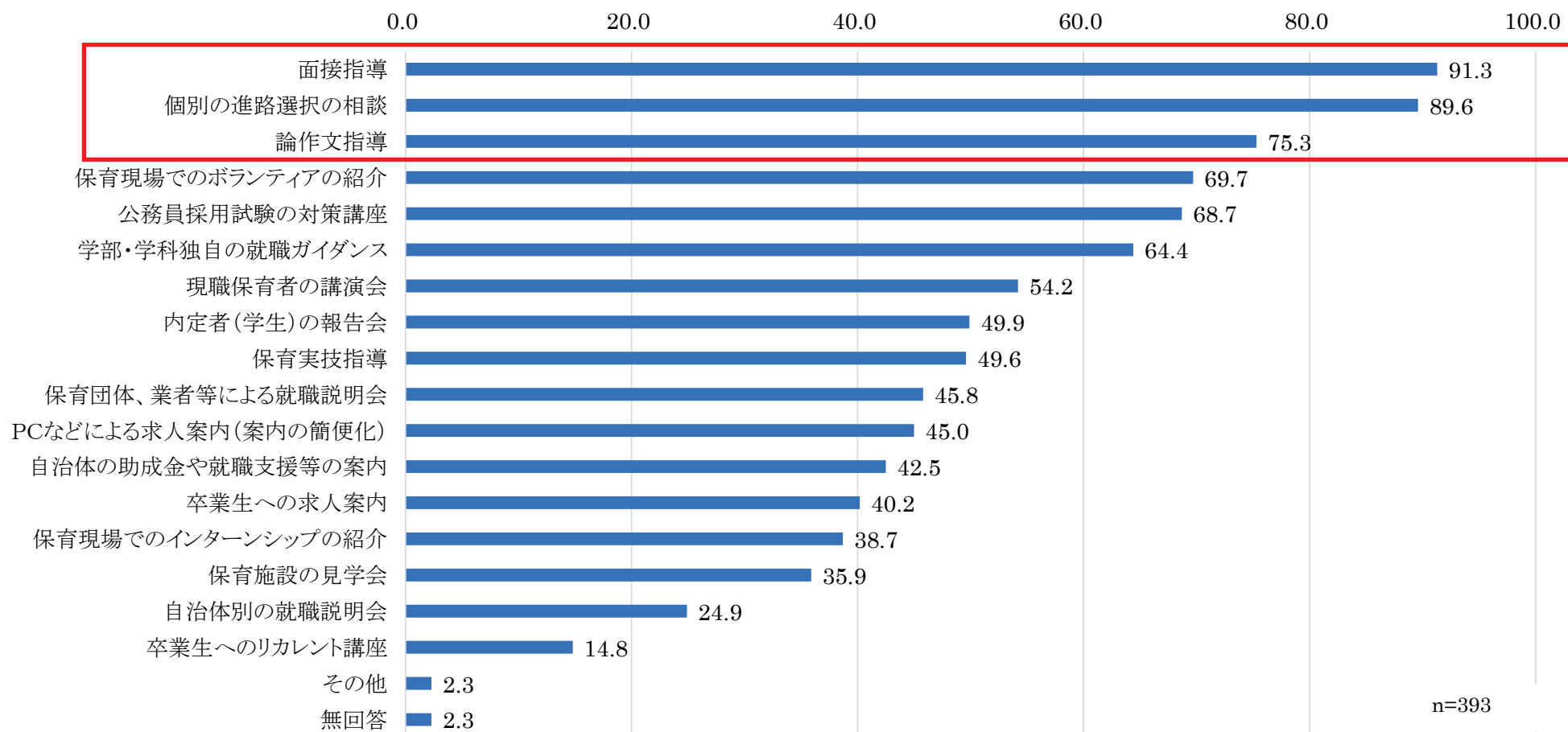
既卒者に対してのキャリア支援



既卒者に行っているキャリア支援の内容



## 養成施設のキャリア支援の実際の取り組み



## 指定保育士養成施設に行ったキャリア支援等に関する調査のまとめ

- ・ 4年制大学が他の学校種に比べて、保育士を目指す気風が弱い傾向がみられた。
- ・ 平成30年度と平成26年度の卒業生の資格・免許取得状況は大きな変化がない。ただし、保育所に就職する学生の割合は減少していた。一方で、認定こども園に就職する者の数が増えている。
- ・ 保育士就職に特化した就職支援担当者を配置している養成施設は半数程度だったが、配置されている担当者は保育現場（保育所、幼稚園等）の経験者である場合が多かった。
- ・ 保育士志望者が増加した養成施設は、その理由として「待遇の向上」を第一にあげている。逆に保育士志望者が減少した養成施設は、学生数の減少の他に、「一般企業の採用増」をその理由としてあげていた。
- ・ 養成施設が行っているキャリア支援としては、「面接指導」「個別の進路選択の相談」といった個別の支援が行われている場合が多い。
- ・ また、支援の基本姿勢として、「学生の主体性」を重視する養成施設が多く、その意識は、「学生が身につけるべき能力を明確化し、その到達度を評価する」という見方を上回っていた。

# 調査の概要

## 1、指定保育士養成施設で実施しているキャリア支援等に関する調査

(指定保育士養成施設調査)

### ① 質問紙調査

就職内定状況、キャリア支援の方針、リカレント教育や地域連携を含む養成施設による保育人材確保の取り組み等の実態

### ② インタビュー調査

養成施設のキャリア支援及び保育人材確保への取り組みの先進事例等

## 2、指定保育士養成校施設卒業者の内定先等に関する調査

(学生調査)

### ① 質問紙調査

当該学生の入学動機、進路選択の過程及び結果及びその理由や養成施設のキャリア支援等のあり方

### ② インタビュー調査

当該学生の入学動機、進路選択の過程及び結果及びその理由や養成施設のキャリア支援等のあり方について、個別具体的な過程等

養成校の卒業年度の学生と養成校を対象として、学生のキャリア選択や養成校のキャリア支援の実態を明らかにすることにより、養成施設における質の高い人材の確保と就業継続への取り組みを促す

## ② インタビュー調査

### 養成施設のキャリア支援及び保育人材確保への取り組みの先進事例等

#### 調査の目的

指定保育士養成施設へのインタビュー調査の報告においては、キャリア支援等に関する有効な好事例を見つけ出し、保育所等への就職を促すためのキャリア支援のあり方について検討することにより、保育人材確保施策に資することを目的とする。

#### 調査の方法

##### ① 調査対象校

指定保育士養成施設7校（4年制大学・短期大学部・大学院（修士課程）併設校：1校、4年制大学：3校、4年制大学・短期大学併設校：1校、短期大学：1校、専修学校：1校）

##### ② 調査時期

2020年1月から2月

##### ③ 調査方法と手続き

インタビューは半構造化面接法を用いて実施し、発話はICレコーダーを用いて記録した。

## ②インタビュー調査

### 養成施設のキャリア支援及び保育人材確保への取り組みの先進事例等

#### インタビュー調査に用いた基本的質問項目

1. キャリアサポート等を実施している部署の理念や方針
2. 1年次から実施しているキャリア形成の流れ
3. キャリアサポートプログラム・支援の特徴
4. 就職内定状況
5. リカレント教育の有無と実施方法
6. 地方団体等との協働
7. 取り組みの成果と課題
8. その他

なお、時間の関係で今回は詳細な結果報告ができないため、結果については、全国保育士養成協議会発刊の研究調査報告書をご覧ください。

# 調査の概要

## 1、指定保育士養成施設で実施しているキャリア支援等に関する調査

(指定保育士養成施設調査)

### ① 質問紙調査

就職内定状況、キャリア支援の方針、リカレント教育や地域連携を含む養成施設による保育人材確保の取り組み等の実態

### ② インタビュー調査

養成施設のキャリア支援及び保育人材確保への取り組みの先進事例等

## 2、指定保育士養成校施設卒業者の内定先等に関する調査

(学生調査)

### ① 質問紙調査

当該学生の入学動機、進路選択の過程及び結果及びその理由や養成施設のキャリア支援等のあり方

### ② インタビュー調査

当該学生の入学動機、進路選択の過程及び結果及びその理由や養成施設のキャリア支援等のあり方について、個別具体的な過程等

養成校の卒業年度の学生と養成校を対象として、学生のキャリア選択や養成校のキャリア支援の実態を明らかにすることにより、養成施設における質の高い人材の確保と就業継続への取り組みを促す

指定保育士養成施設卒業者の内定先等に関する調査  
(学生調査)

## 質問紙調査の目的・方法

### 調査の目的

保育士養成校で保育士資格を取得予定の者を対象とした質問紙調査を実施し、保育士資格取得者が保育士への就職に課題になっていることを明らかにし、保育士への就職のための方策を提案する。

### 調査の方法

#### ① 調査対象者

2019年度保育士養成施設卒業予定者5,532名を対象とし、3,648名から回答を得た（回収率は65.9%）内訳は、保育士養成施設59施設（4年制大学：27施設、短期大学：22施設、専門学校：10施設）の卒業予定者

#### ② 調査時期

2019年11月～12月

#### ③ 調査方法と手続き

郵送法。卒業予定者は、調査用紙に記入後、返信用封筒に入れて、各自で返送するように依頼した。



## 調査内容

### <フェイスシート>

性別、年齢、所属する学校の所在地、所属する学校の種類、取得見込みの資格・免許、就職支援・相談の有無や相手、就職先、など

### <保育職の就職について（就職先・希望先が保育職の方のみ）>

保育職への就職を決めた時期とその理由、就職活動の状況、就職先が決まった時期とその所在地、就職先を決める上で重視したこと、など

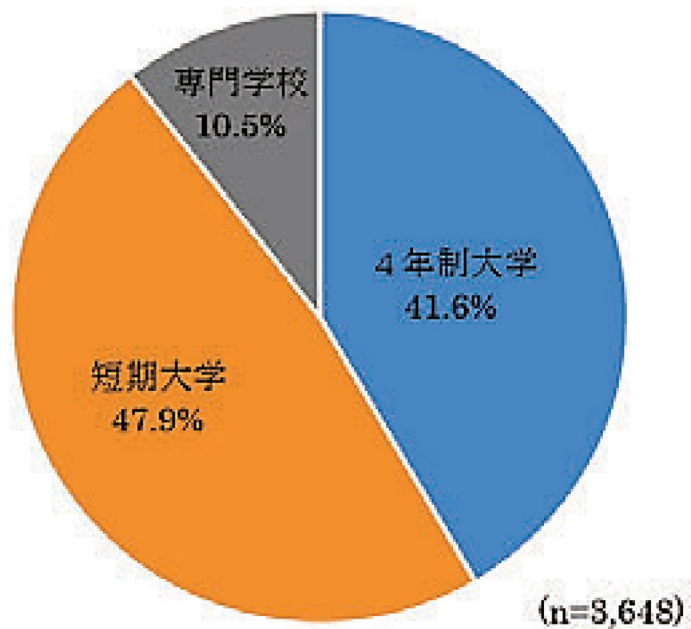
### <一般職の就職について（就職先・希望先が一般職の方のみ）>

一般職への就職を決めた時期とその理由、就職活動の状況、就職活動を始めた時期、就職先が決まった時期、就職先を決める上で重視したこと、など

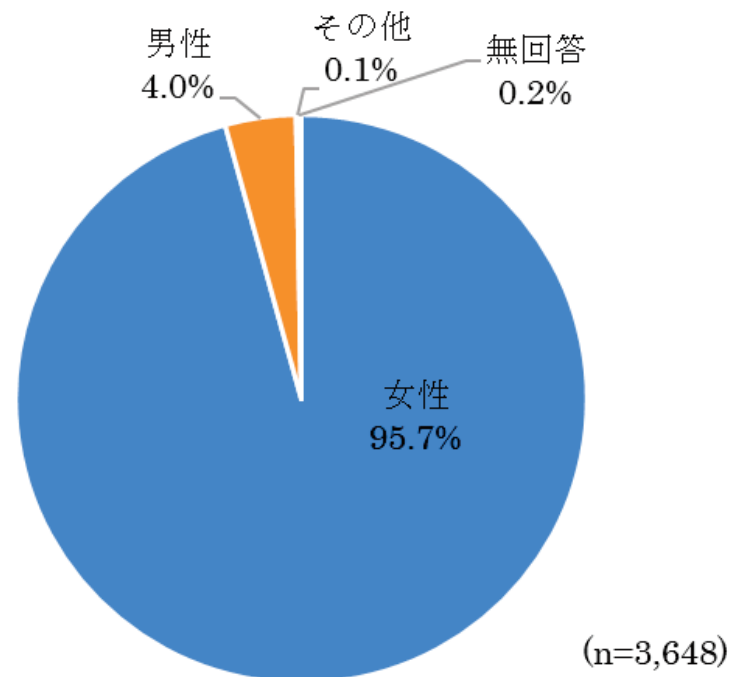
### <就職を希望していない理由（就職を希望していない方のみ）>

# 調査の結果

## 回答者の属性・性別



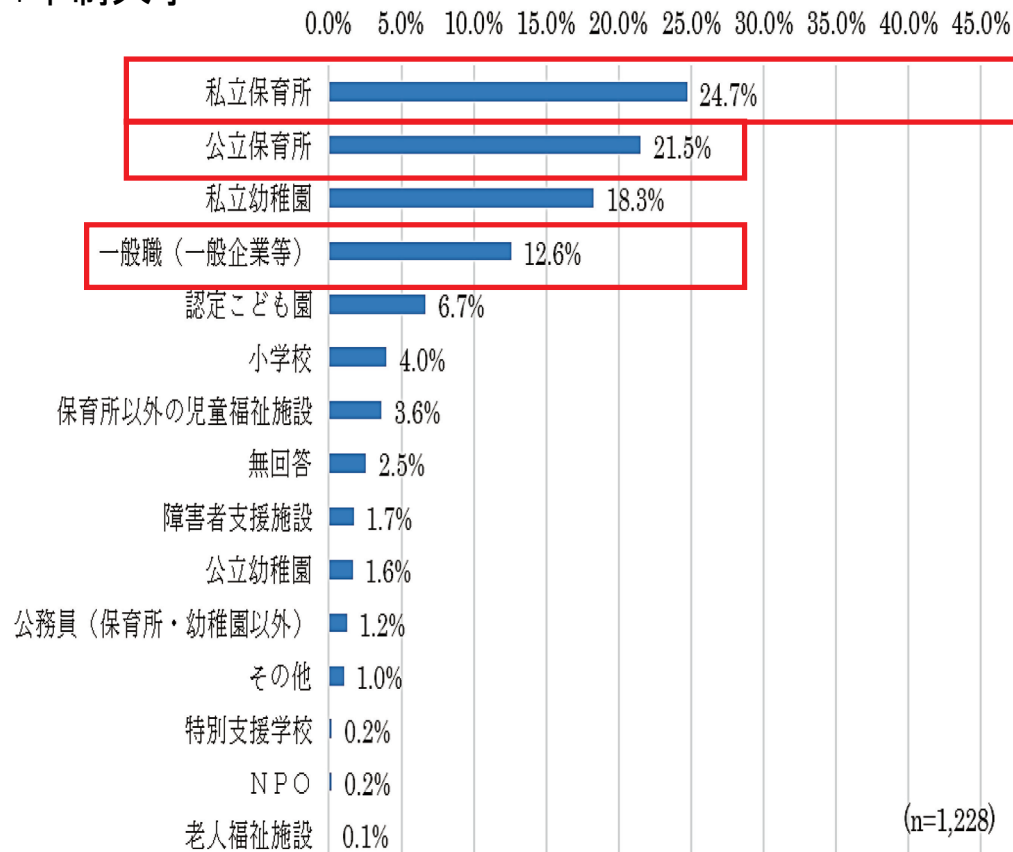
回答者の属性：所属校の種類



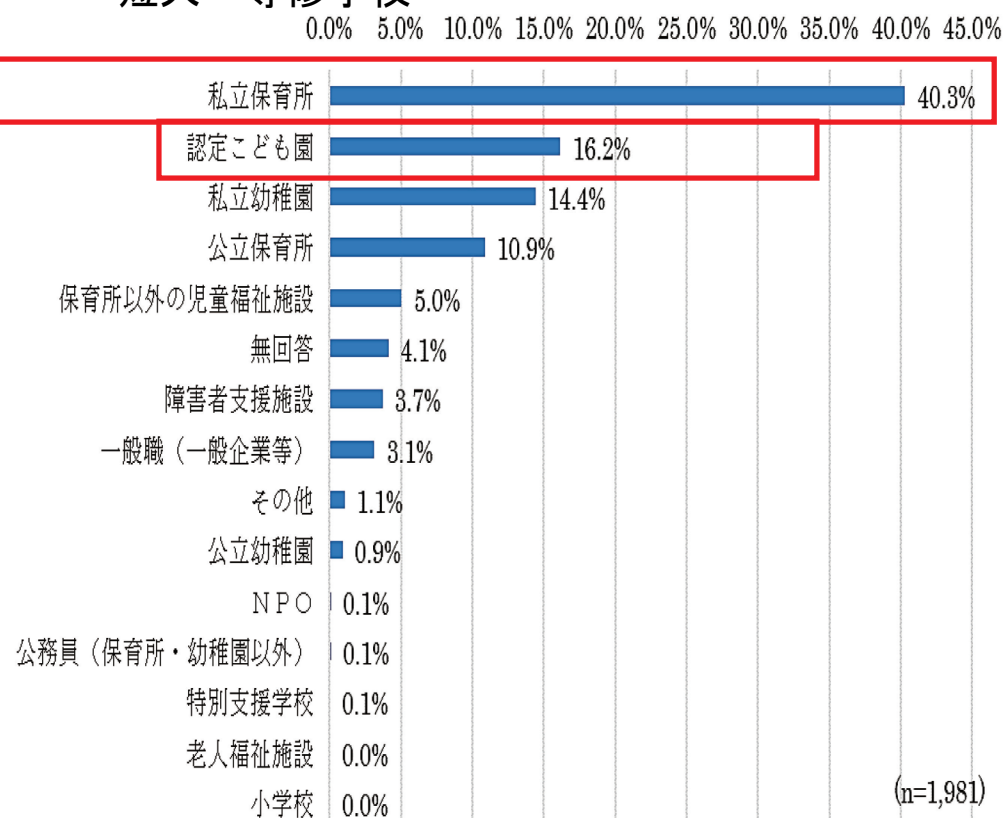
性別

# 就職決定先もしくは希望就職先について

## 4年制大学



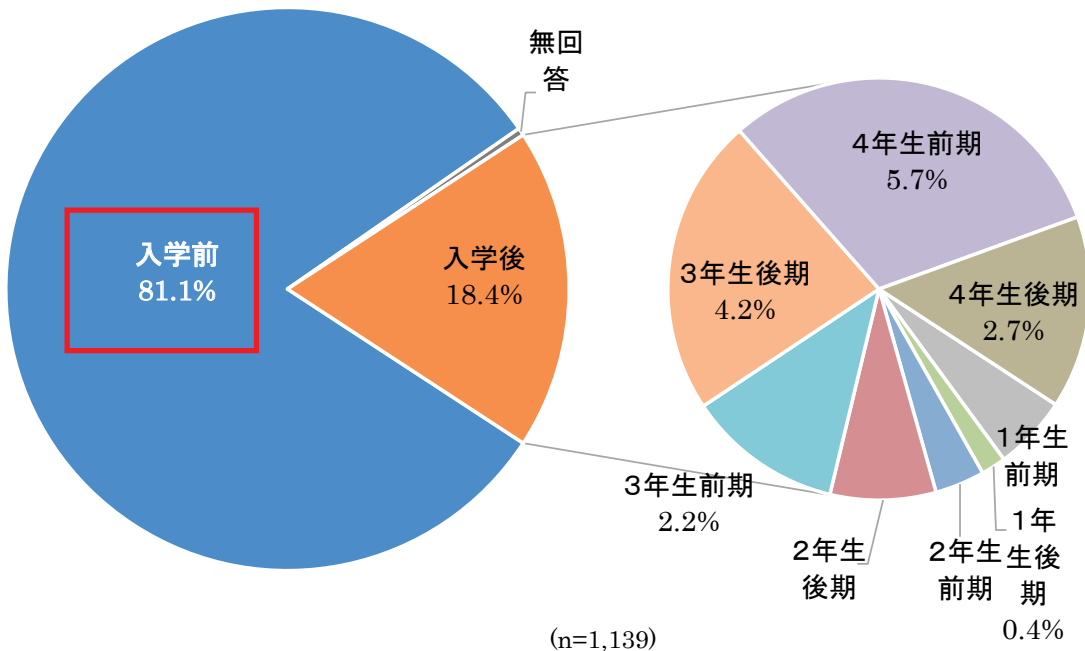
## 短大・専修学校



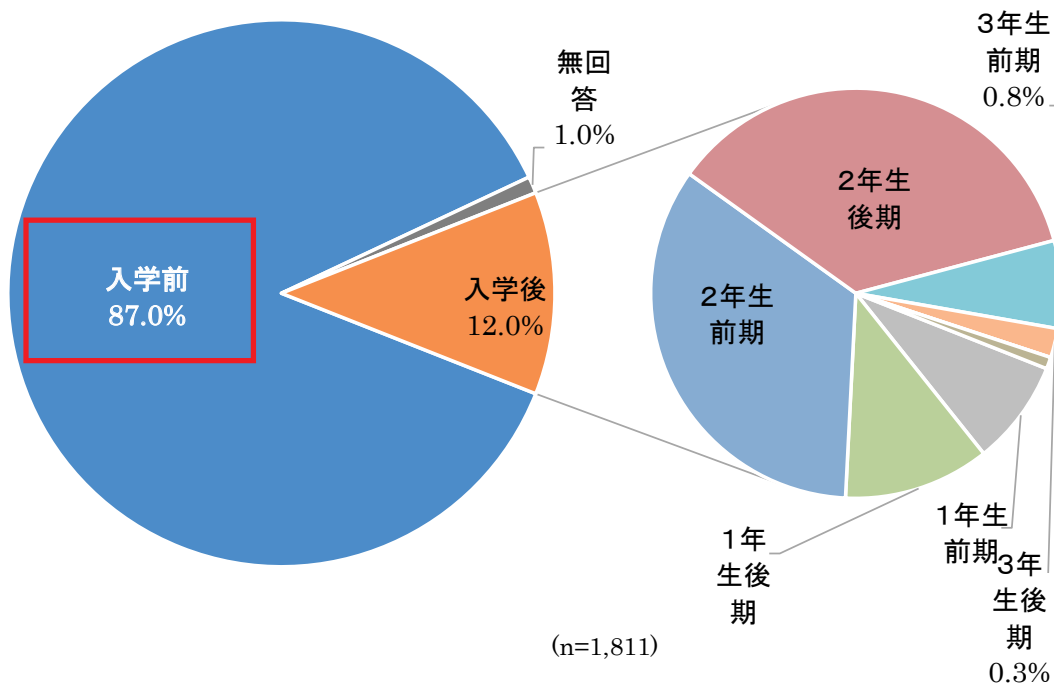
## 就職決定先もしくは希望就職先

保育職への就職を目指すことを決めた時期 (就職決定先または希望先が保育職)

4年制大学

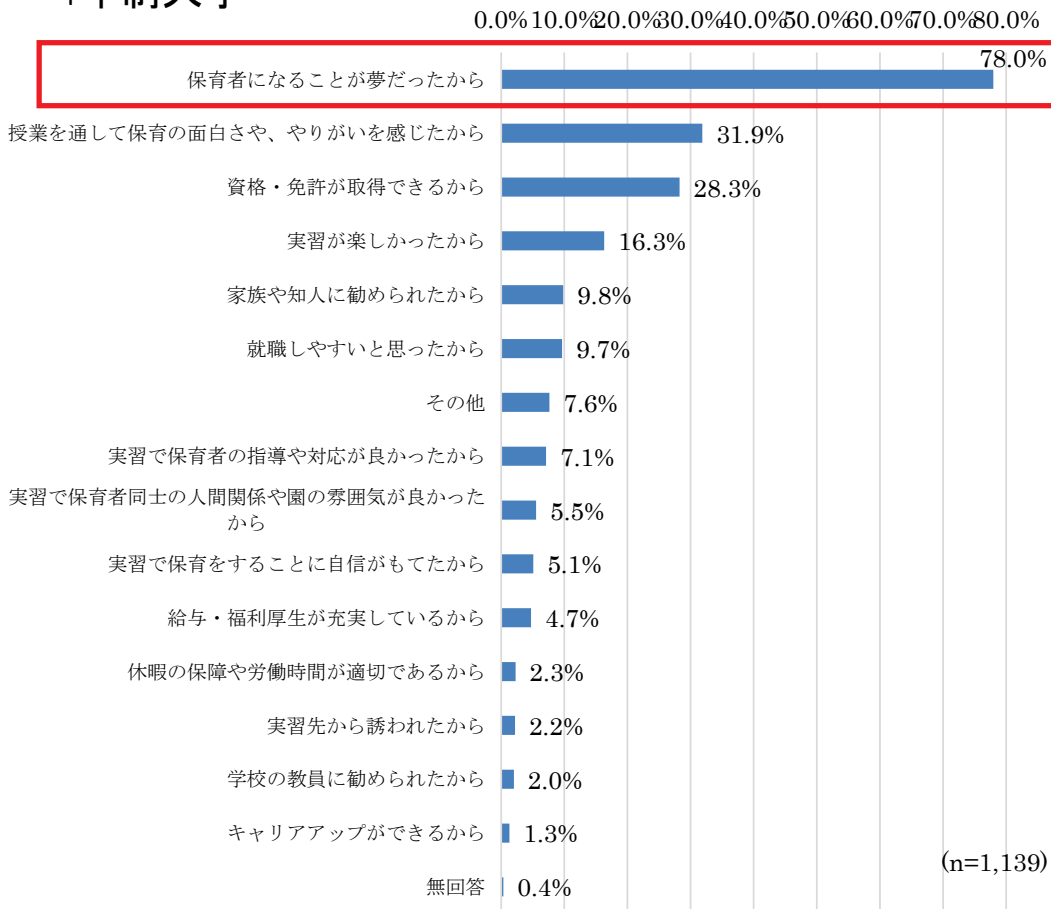


短大・専修学校

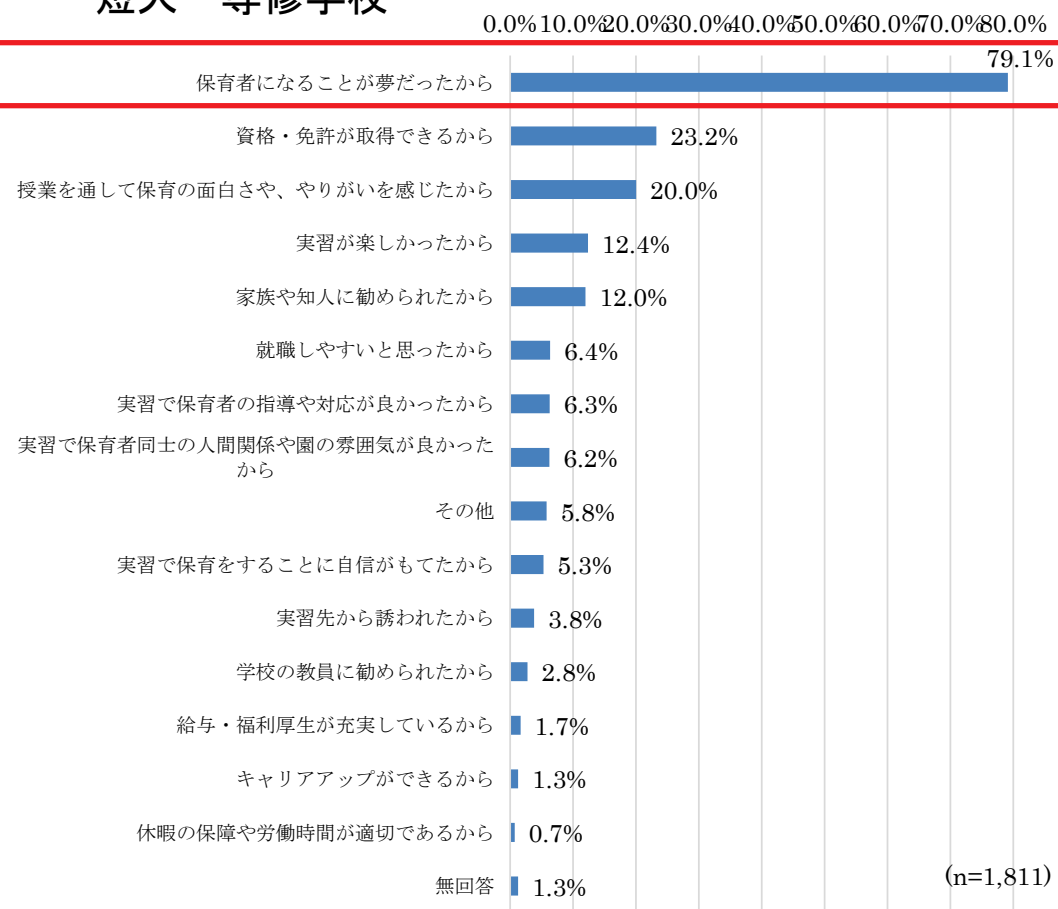


# 保育職への就職を目指すことに決めた理由

## 4年制大学



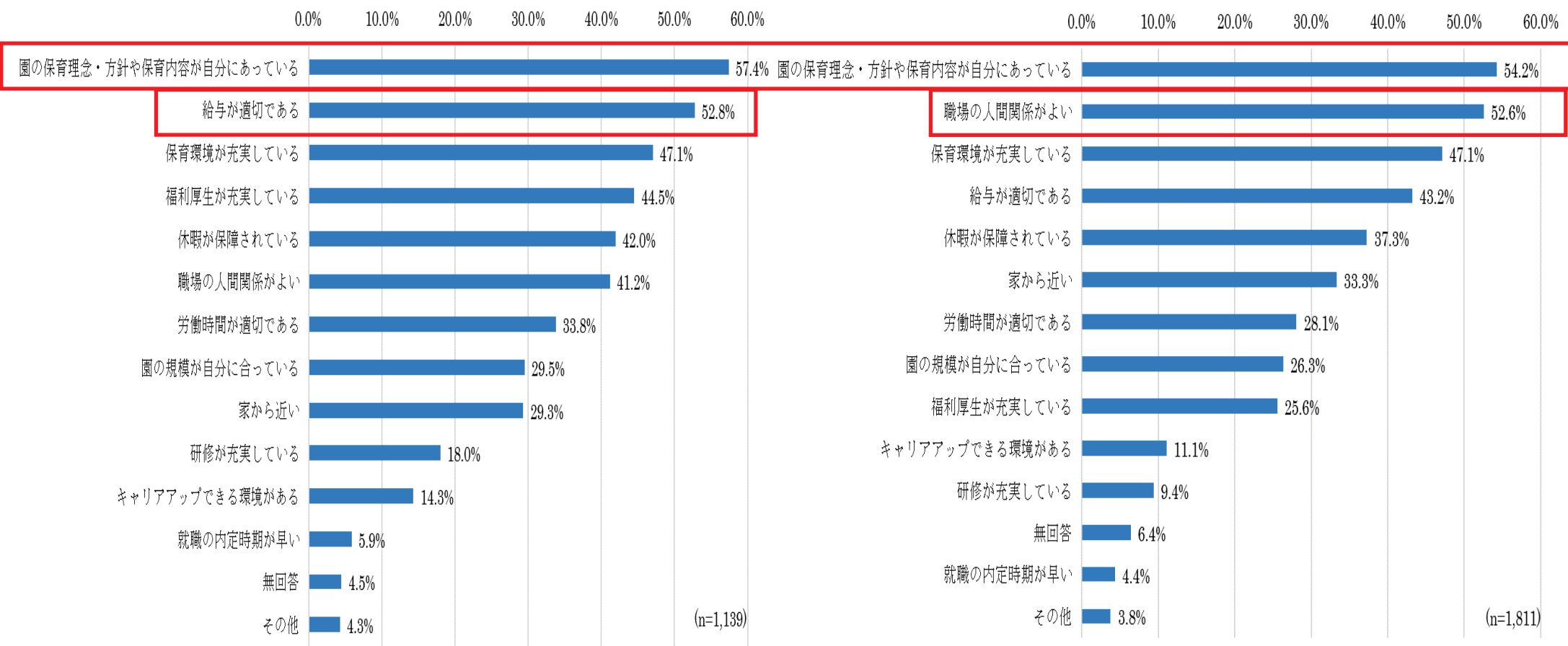
## 短大・専修学校



# 保育職への就職先を決めるにあたって重視したこと

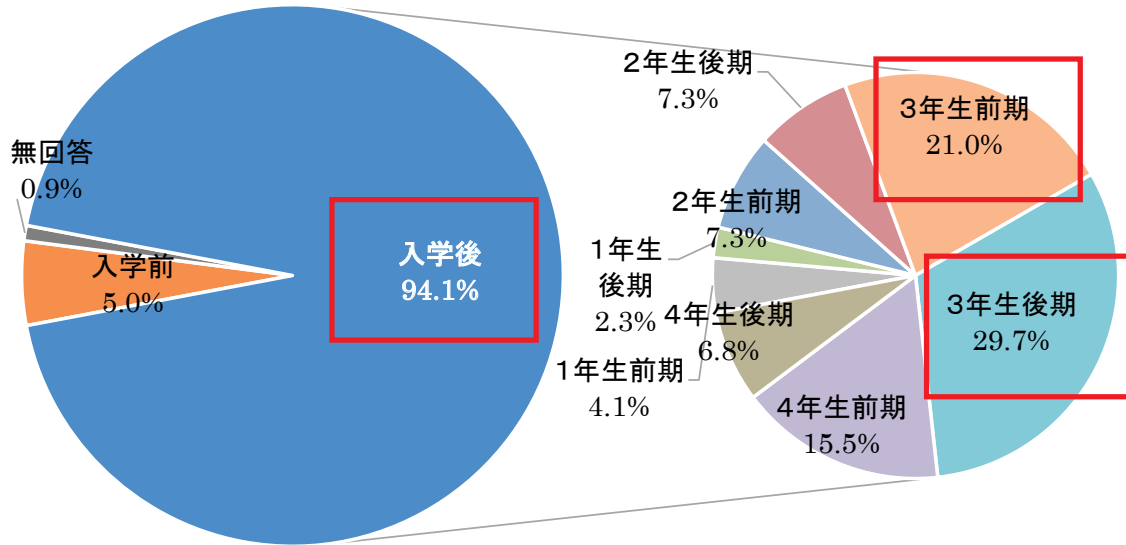
## 4年制大学

## 短大・専修学校



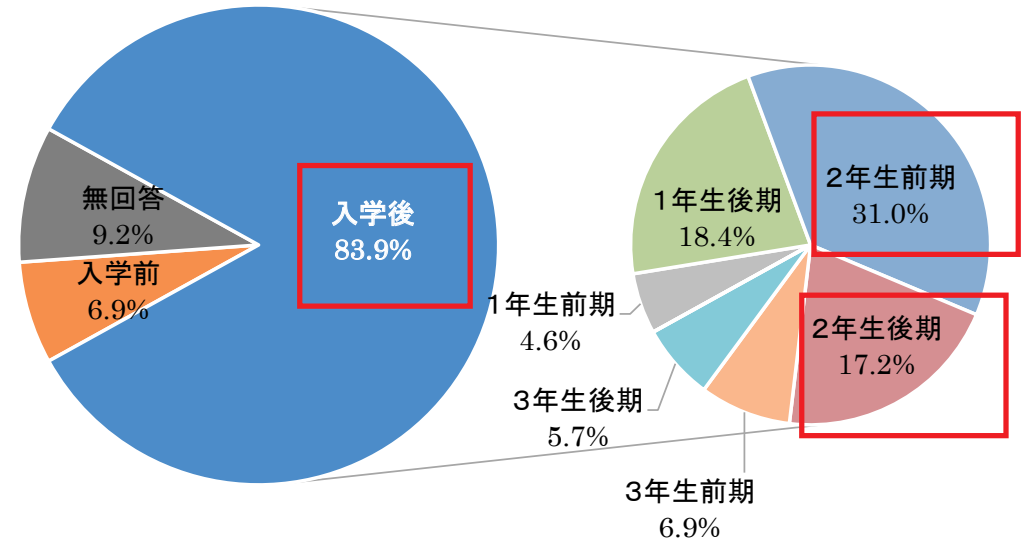
一般職への就職を目指すことを決めた時期（就職決定先または希望先が保育職）

4年制大学



(n=219)

短大・専修学校



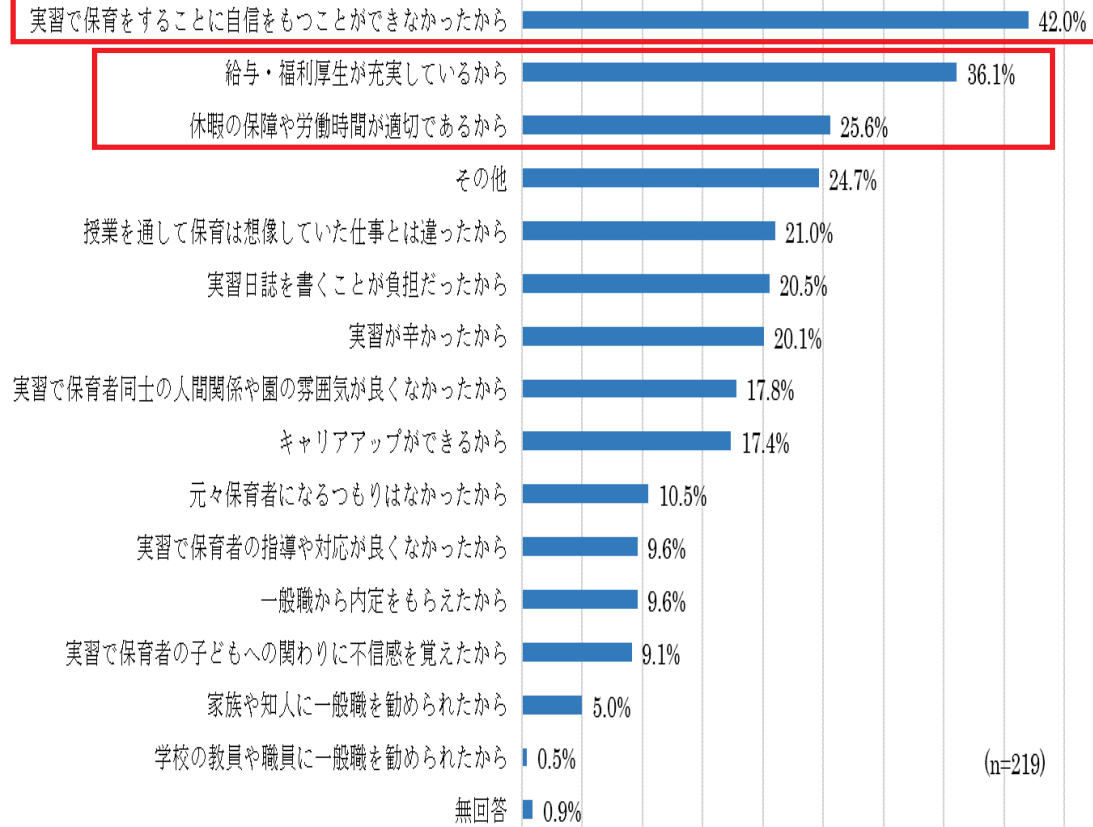
(n=87)



# 一般職に就くことを決めた理由

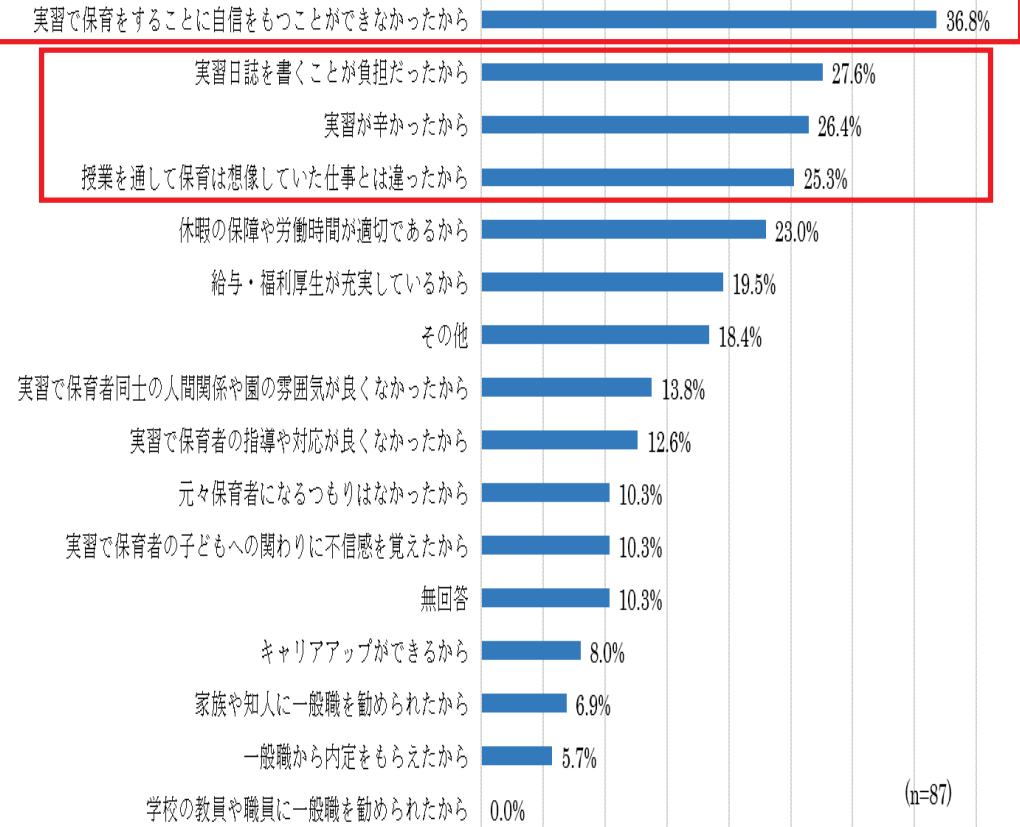
## 4年制大学

0.0% 5.0% 10.0% 15.0% 20.0% 25.0% 30.0% 35.0% 40.0% 45.0%

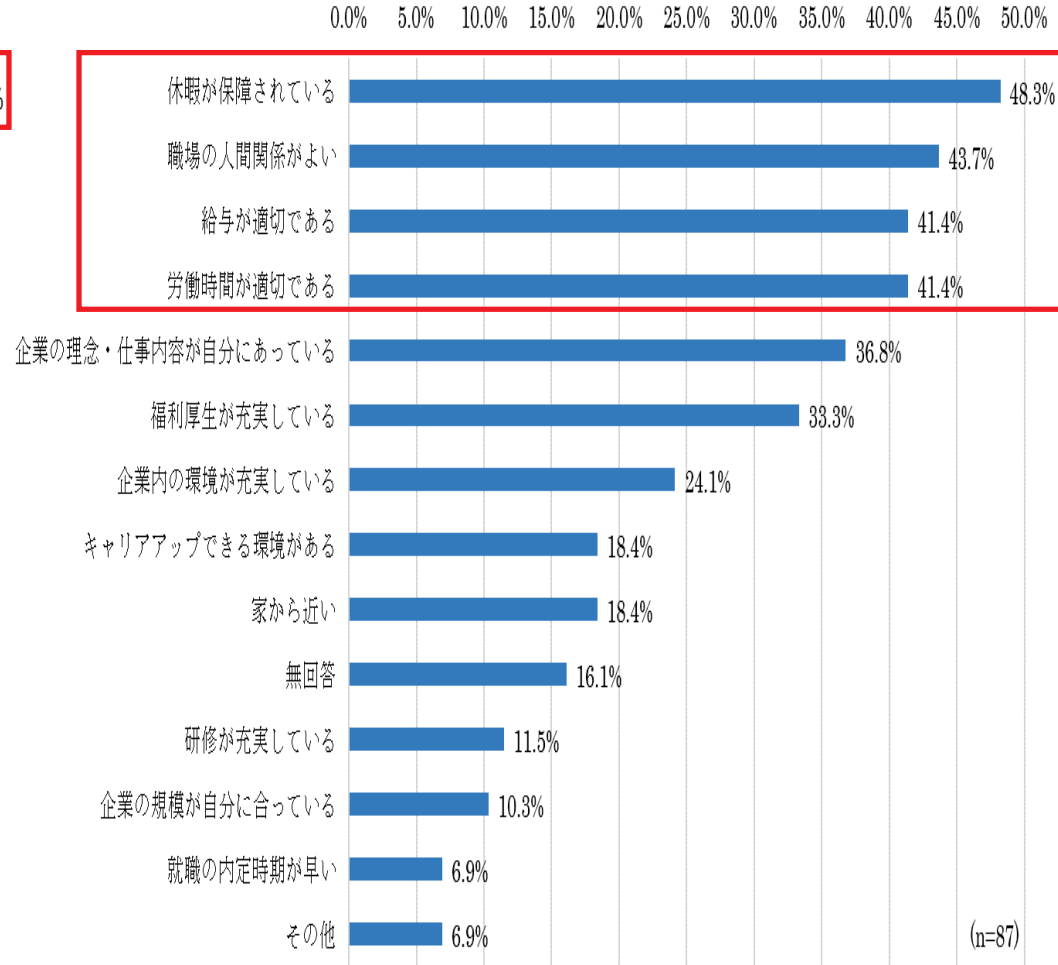
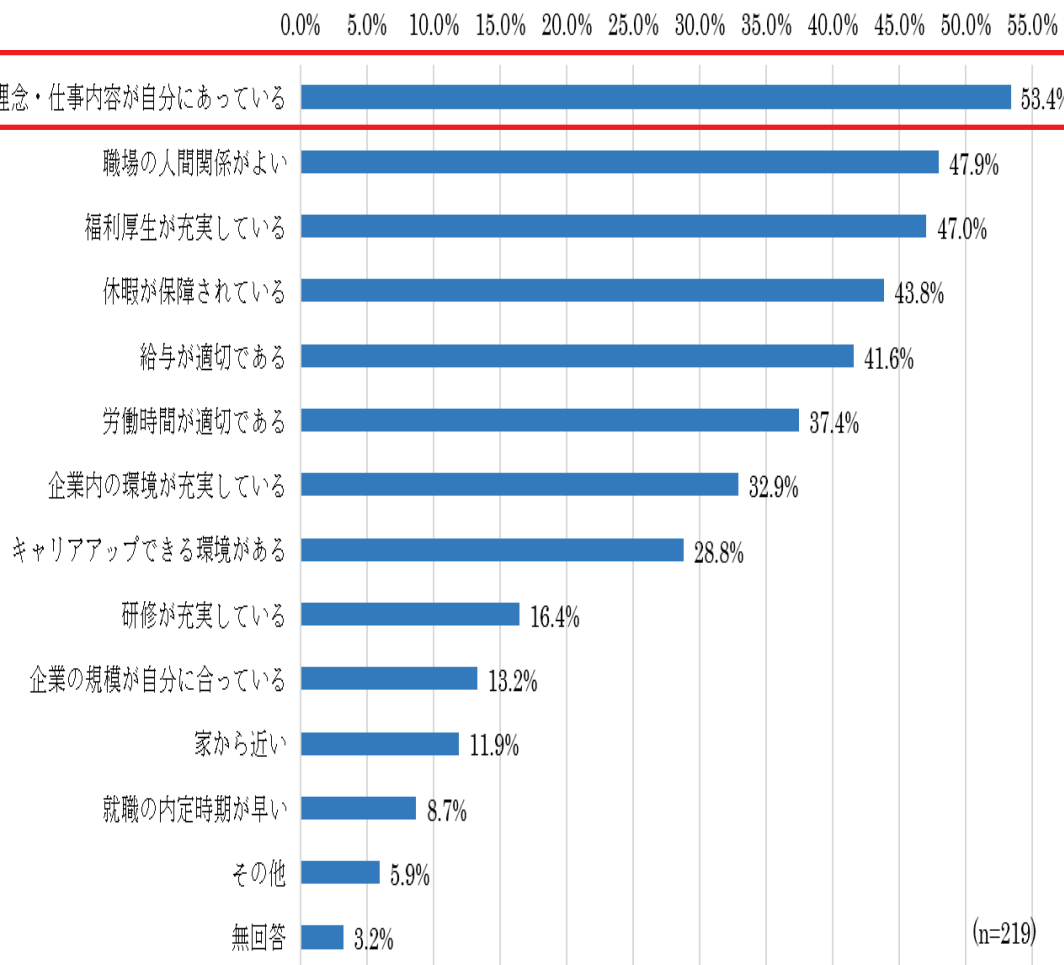


## 短大・専修学校

0.0% 5.0% 10.0% 15.0% 20.0% 25.0% 30.0% 35.0% 40.0%



# 一般職の就職先を決めるにあたって重視したこと



## 指定保育士養成卒業者の内定先等に関する調査のまとめ

- ・ 保育職への就職決定及びその時期は、4年制、短大・専修学校どちらにおいても、8割以上の学生が**入学前**と回答している。
- ・ 保育職への就職を目指すことに決めた理由については、4年制、短大・専修学校どちらにおいても、「保育者になることが夢だったから」が7割以上で最も多かった。
- ・ 就職先を決めるにあたり重視したこととしては、「園の保育理念・方針や保育内容が自分にあっている」が最も多いが、4年制の学生は、「給与が適切である」「福利厚生が充実している」などの労働環境の良さを重視する回答がより多く、短大・専修学校では「職場の人間関係がよい」といった回答がより多かった。
  
- ・ 一般職（保育職以外）への就職決定及びその時期は、4年制、短大・専修学校どちらにおいても、8割以上の学生が**入学後**と回答している。
- ・ 一般職に就職を目指すことに決めた理由については、4年制、短大・専修学校どちらにおいても、「実習で保育をすることに自信を持つことができなかつたから」が多かった。特に、短大・専修学校では、「実習日誌を書くことが負担だったから」「実習が辛かつたから」といった実習に関係する理由が多く回答された。
- ・ 就職先を決めるにあたり重視したこととしては、4年制で「企業の理念・仕事内容が自分に合っている」が最も多く、短大・専修学校では、「休暇が保障されている」「職場の人間関係がよい」などの労働環境の良さを重視する回答がより多かった。

# 調査の概要

## 1、指定保育士養成施設で実施しているキャリア支援等に関する調査

(指定保育士養成施設調査)

### ① 質問紙調査

就職内定状況、キャリア支援の方針、リカレント教育や地域連携を含む養成施設による保育人材確保の取り組み等の実態

### ② インタビュー調査

養成施設のキャリア支援及び保育人材確保への取り組みの先進事例等

## 2、指定保育士養成校施設卒業者の内定先等に関する調査

(学生調査)

### ① 質問紙調査

当該学生の入学動機、進路選択の過程及び結果及びその理由や養成施設のキャリア支援等のあり方

### ② インタビュー調査

当該学生の入学動機、進路選択の過程及び結果及びその理由や養成施設のキャリア支援等のあり方について、個別具体的な過程等

養成校の卒業年度の学生と養成校を対象として、学生のキャリア選択や養成校のキャリア支援の実態を明らかにすることにより、養成施設における質の高い人材の確保と就業継続への取り組みを促す

## ② 卒業予定者に対するインタビュー調査

### 調査の目的

保育士資格取得者が保育士への就職に課題になっていることを明らかにする。その際、実習経験が保育職および一般職（保育職以外）への職業選択に影響を与えている可能性があると考え、保育実習等の経験の影響について着目する。

### 調査の方法

#### ① 調査対象者

保育士として就職を予定している者12名（全員女性：4年制大学10名・短期大学2名）  
一般企業等の一般職に就職を予定している者12名（全員女性4年制大学11名・短期大学1名）

#### ② 調査時期

2019年11月から2020年1月

#### ③ 調査方法と手続き

インタビューは、質問項目を設定し、それらの質問について答えていただく構造化インタビューを2名程度のグループ形式で実施した。

## 調査内容

### <保育職>

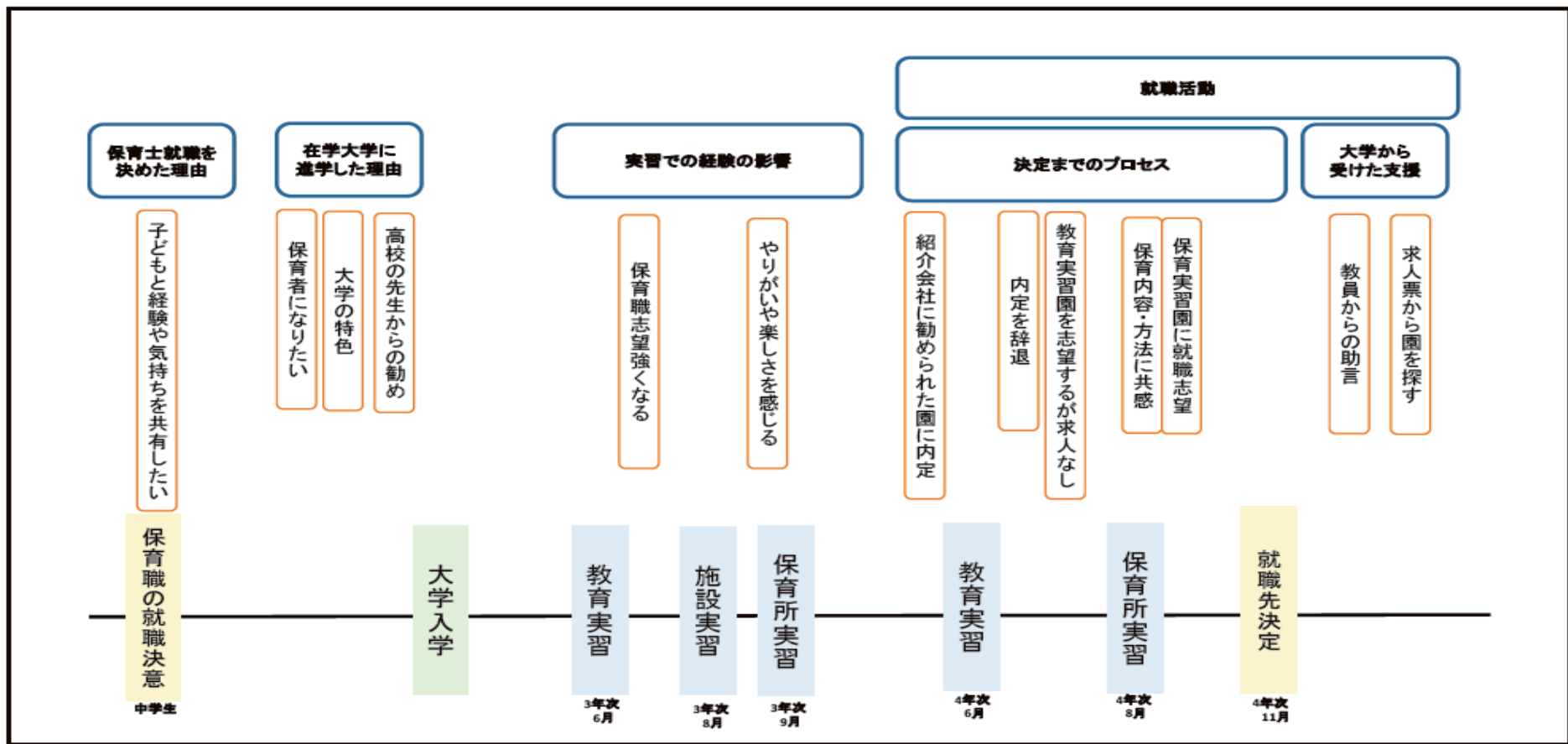
- ・ 在学大学（短大）に進学した理由
- ・ 保育士（保育職）への就職を決めた時期、及びその理由
- ・ 保育士（保育職）への就職を決めるうえでの保育実習等の経験の影響
- ・ 保育士（保育職）の就職先を決めた就職プロセス
- ・ 在学大学（短大）の教員・職員から受けた就職支援

### <一般職>

- ・ 在学大学（短大）に進学した理由
- ・ 保育士（保育職）への就職をしないことを決めた時期、及びその理由
- ・ 保育士（保育職）への就職をしないことを決めるうえでの保育実習等の経験の影響
- ・ 一般職の就職先を決めた就職プロセス
- ・ 在学大学（短大）の教員・職員から受けた就職支援

# 入学前から就職先決定までのプロセス図 (保育職)

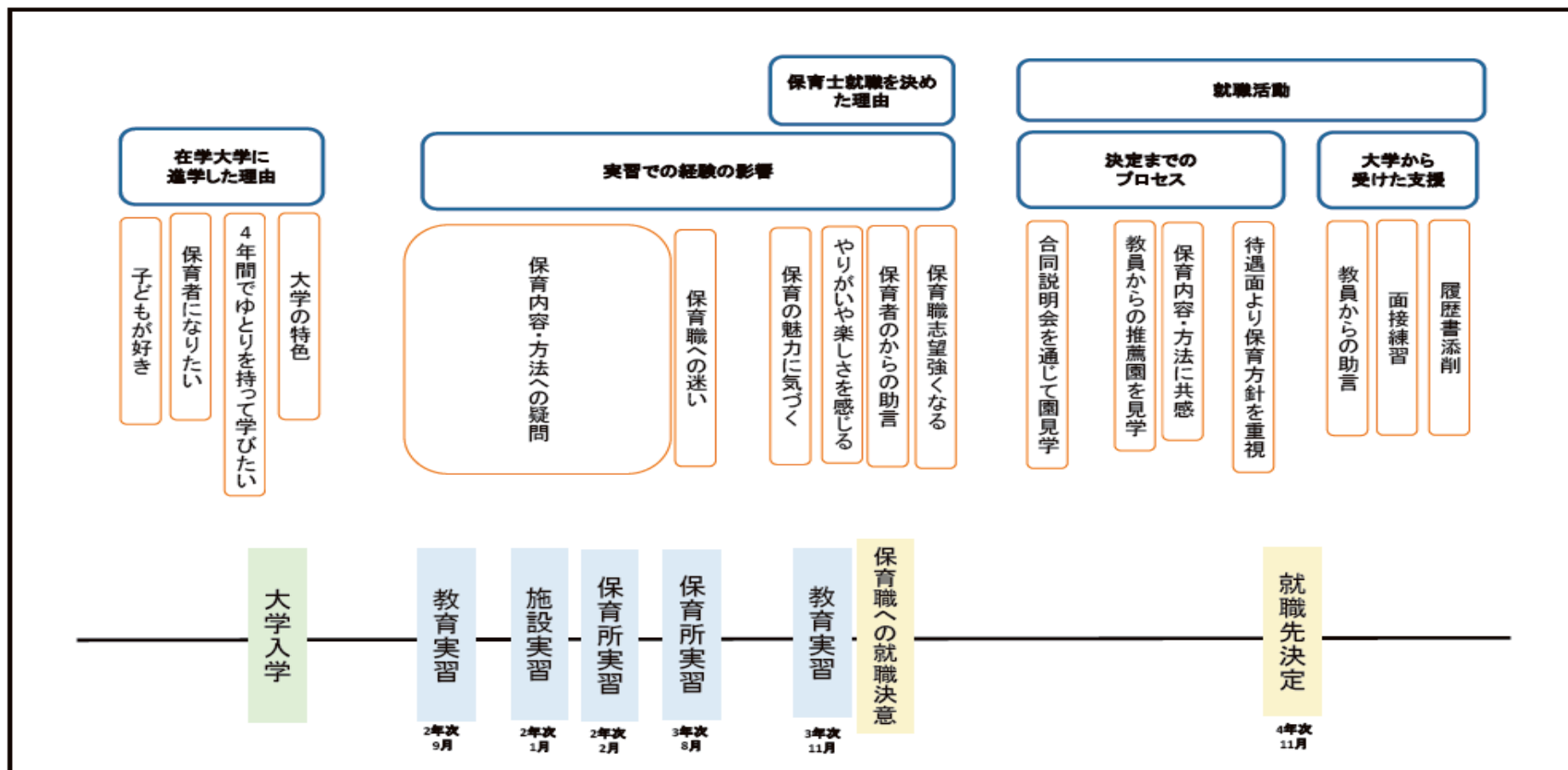
## 保育職①



在学：4年制大学 4年次

取得予定資格：保育士・幼稚園教諭 1種

## 保育職②



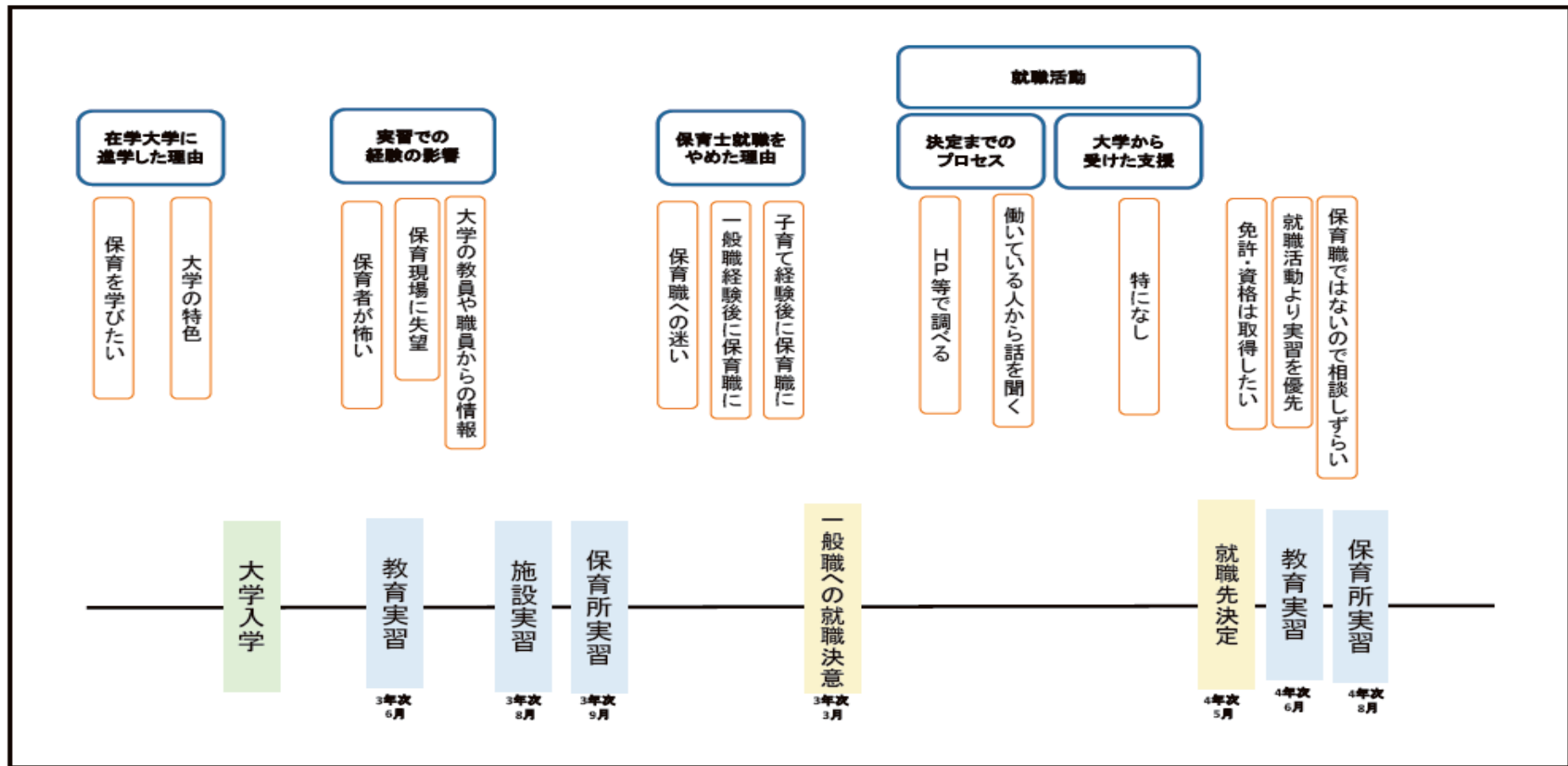
在学：4年制大学 4年次

取得予定資格：保育士・幼稚園教諭 1種



# 入学前から就職先決定までのプロセス図 (一般職)

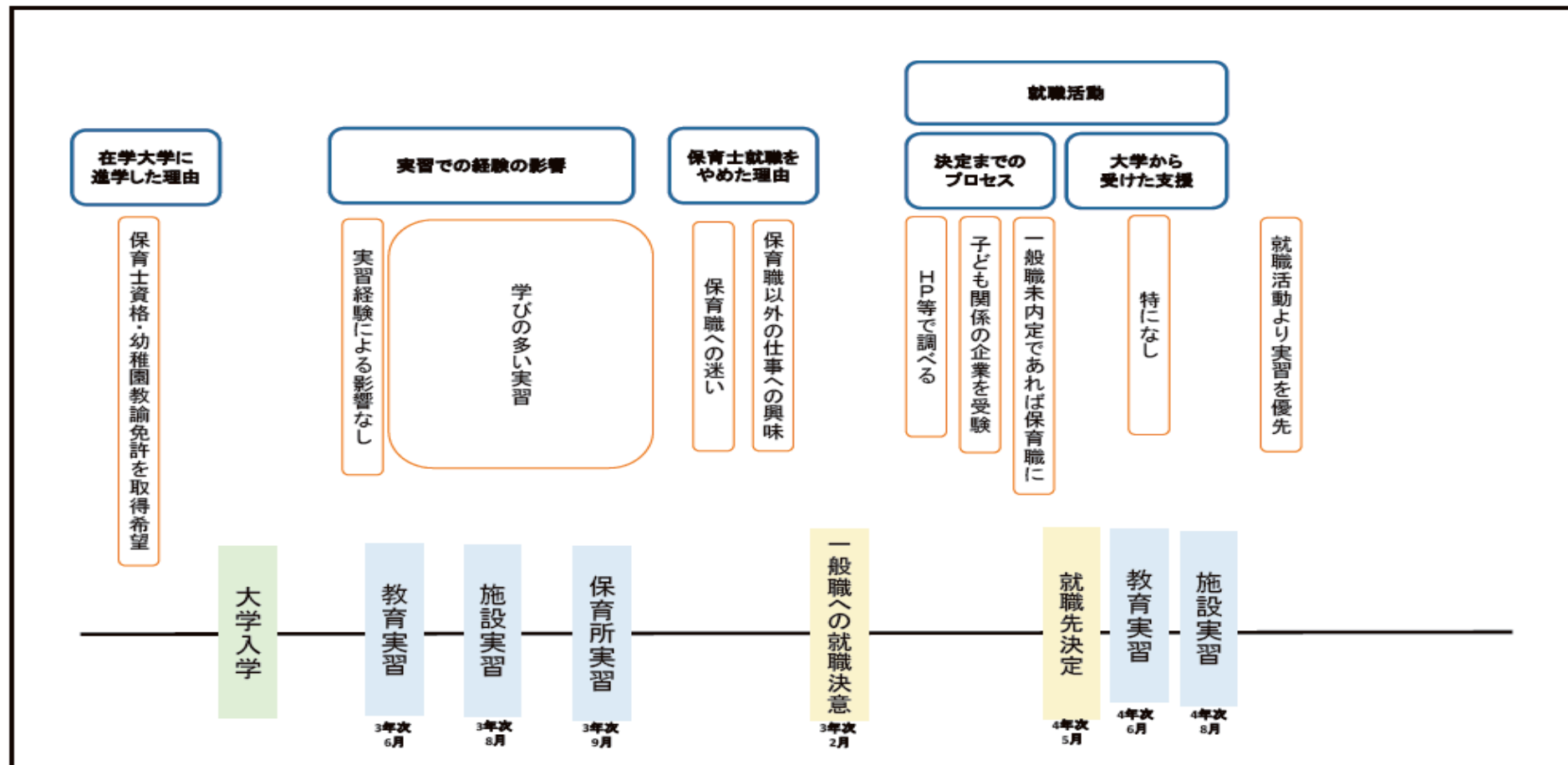
## 一般職①



在学：4年制大学 4年次

取得予定資格：保育士・幼稚園教諭 1種

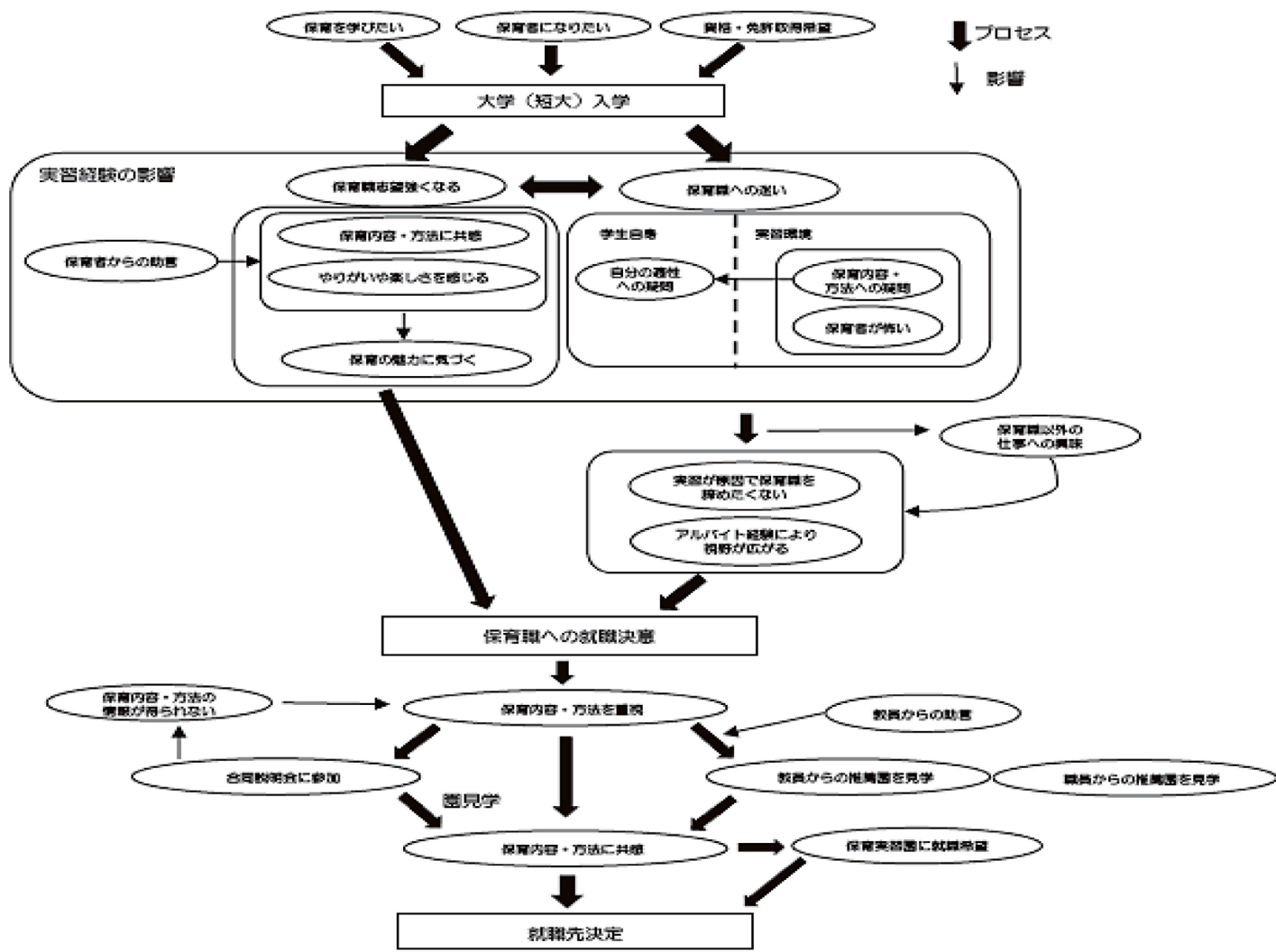
一般職②



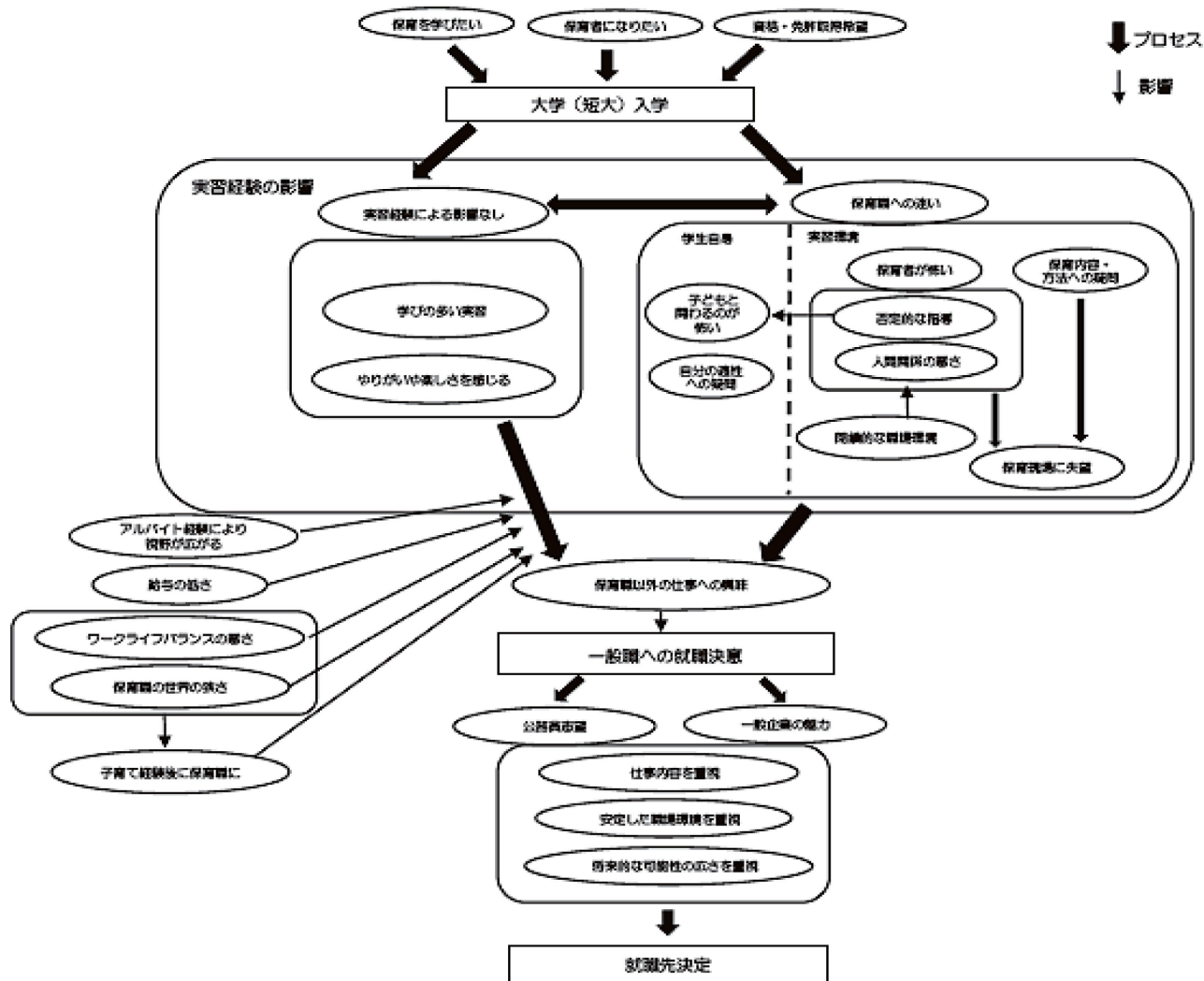
在学：4年制大学 4年次

取得予定資格：保育士・幼稚園教諭 1種

# ストーリーライン図（保育職）



# ストーリーライン図（一般職）



## 調査結果からの示唆と今後の課題

## 調査結果から

養成校に入学してくる学生の大半は、当初より保育職を目指しており、そのうちの多くはそのまま保育職へと方向づけられている。しかし、実習におけるネガティブな経験や保育職の処遇についてのネガティブな情報から、保育職志望への迷いが生じ、それをぬぐえない場合に保育職志望から離脱することが見て取れる。

## 今後の課題

- ① 学生が保育職に方向づけられるような、適切な保育実践や労務管理に組織的に取り組んでいるような実習施設を選定すること。
- ② 養成校及びその教員が、学生の主体的、対話的で深い学びを促すような指導を進め、また保育者のキャリア形成への見通しを提供する。
- ③ 修業年限を踏まえたキャリア教育と、修業年限を踏まえた保育者のキャリアデザインにおいて実習施設と養成校が連携・協働して支援していく必要がある。

2020年度 新型コロナウイルス感染症への対応に関わる  
本会会員校の実態の調査の結果

## 質問紙調査の目的・方法

### 調査の目的

保育士養成施設における新型コロナウイルス感染症への対応の実態を調査することを目的とした。対応の実態を把握し、そこで得られた情報を公表し、相互に内容を確認することを通じて、今後のより良い対策を検討するための資料として活用する。

### 調査の方法

#### ① 調査対象者

本会会員である542校の614養成施設を調査対象とし、学科長等、養成課程の責任ある教員の方に回答を求めた。結果、232施設から回答を得た（回収率は37.8%）

#### ② 調査時期

2020年7月

#### ③ 調査方法と手続き

各養成施設が全国保育士養成協議会のホームページ「会員校専用コンテンツ」に掲載している調査票をダウンロードし、回答後、メールにて返送をお願いした。

### 調査内容

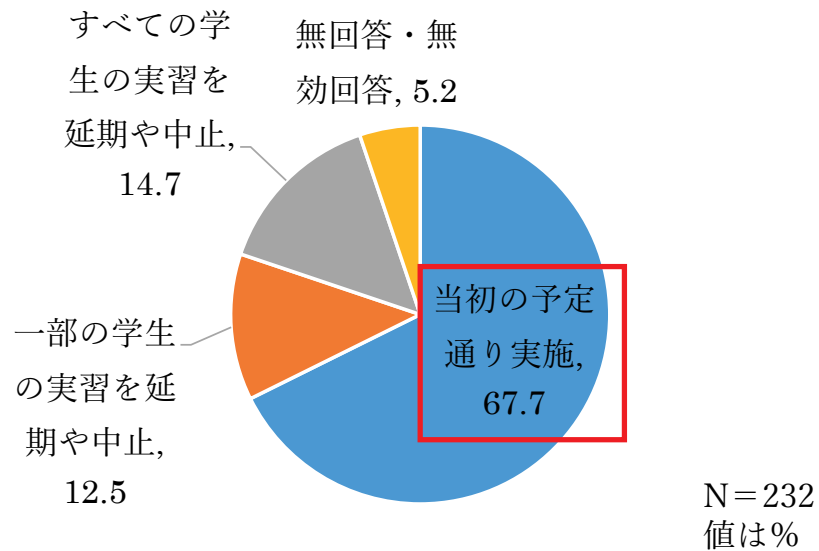
- ・ 新型コロナウイルス感染症の実習への影響
- ・ 新型コロナウイルス感染症の学内授業への影響
- ・ 新型コロナウイルス感染症の学生への影響 など



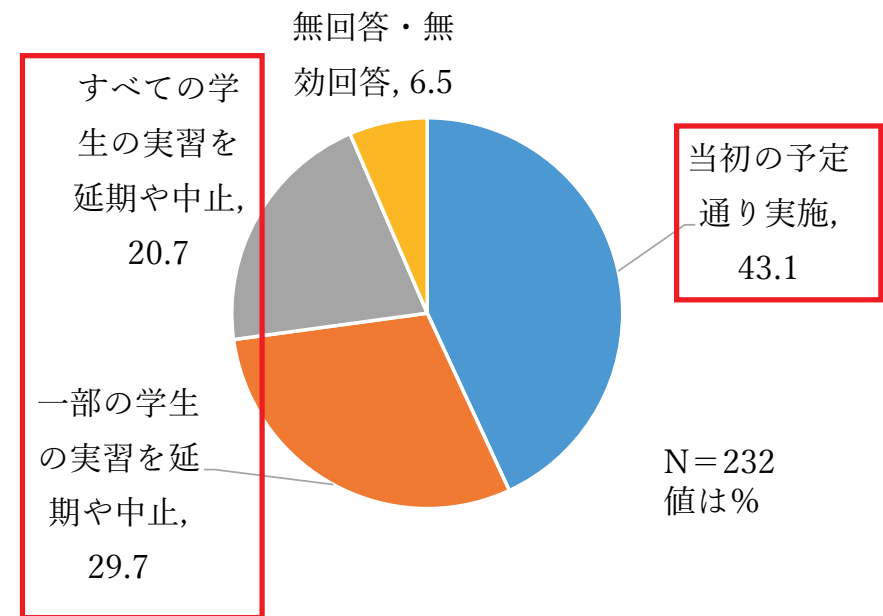
## 基本属性

		度数	%
種別 N=232	大学	97	41.8
	短期大学	89	38.4
	専修学校	41	17.7
	高等学校専攻科	1	0.4
	無回答	4	1.7
所在地（ブロック） N=232	北海道	16	6.9
	東北	15	6.5
	関東	87	37.5
	中部	28	12.1
	近畿	51	22.0
	中・四国	18	7.8
	九州	16	6.9
	無回答	1	0.4

# 2020年度 保育実習の状況

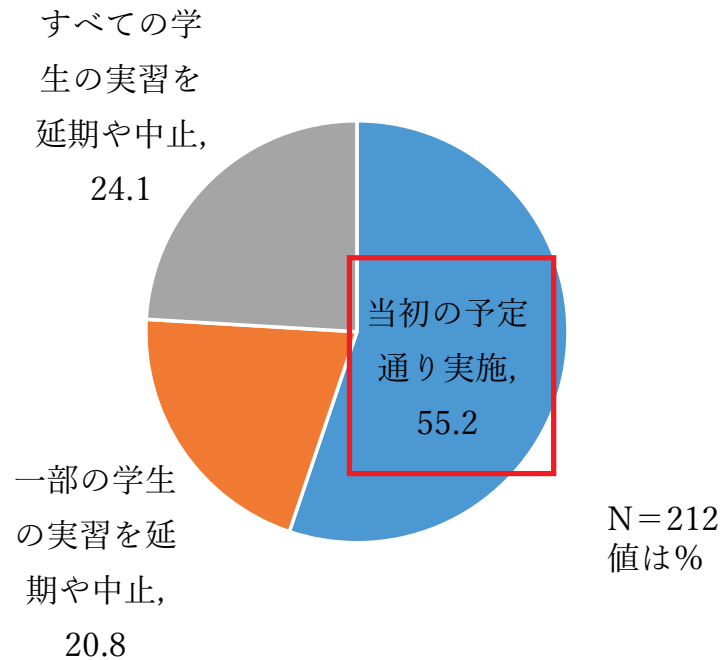


図表 2-1 2020年度保育実習 I（保育所）の状況

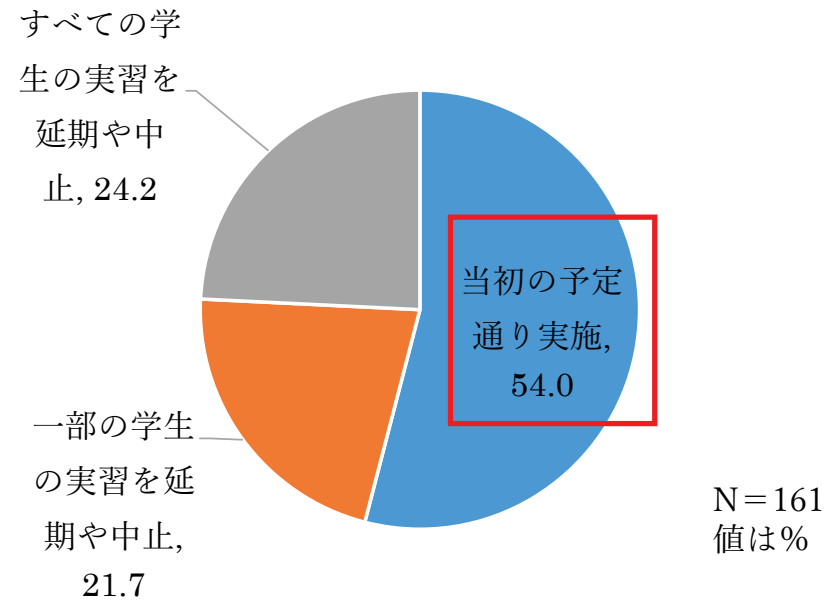


図表2-2 2020年度保育実習 I（施設）の状況

# 2020年度 保育実習の状況

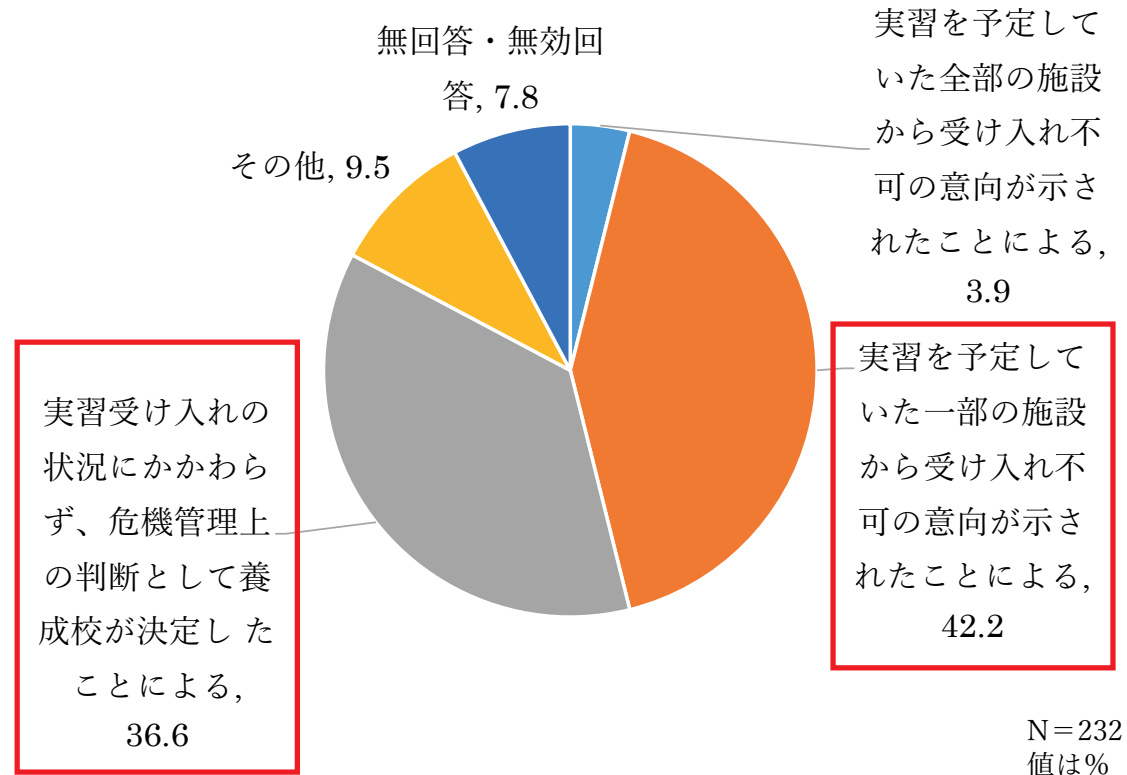


図表2-3 2020年度保育実習Ⅱの状況



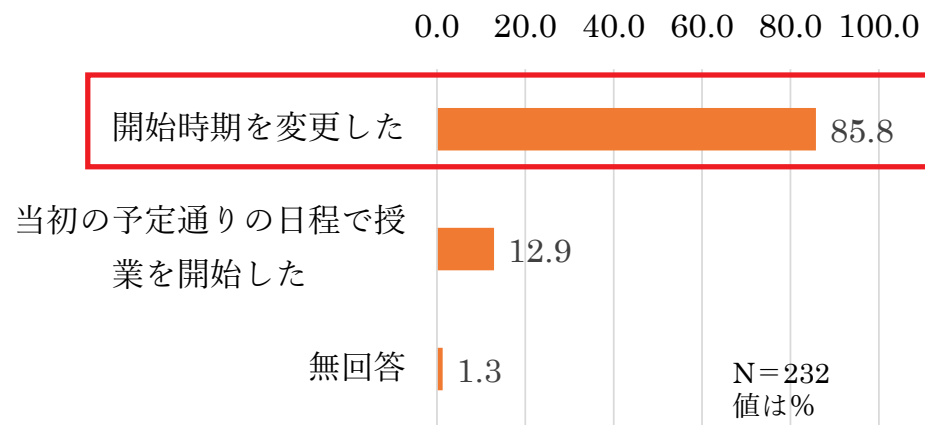
図表2-4 2020年度保育実習Ⅲの状況

# 実習の延期や中止の決定の理由

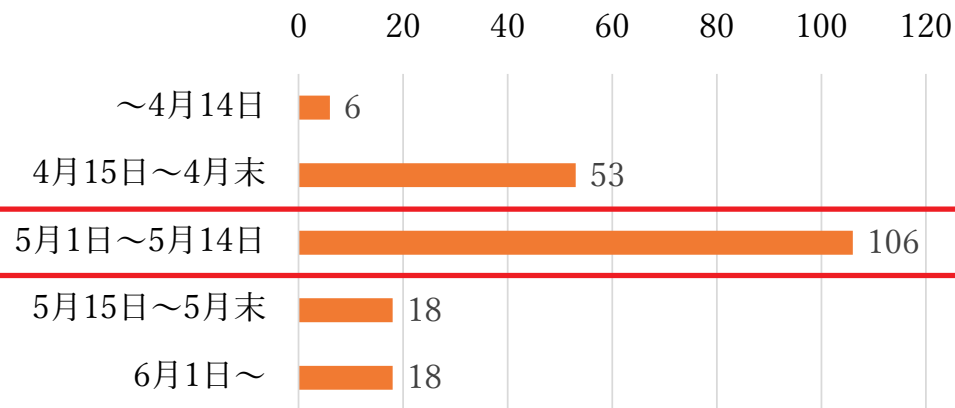


図表2-13 実習の延期や中止の決定の理由

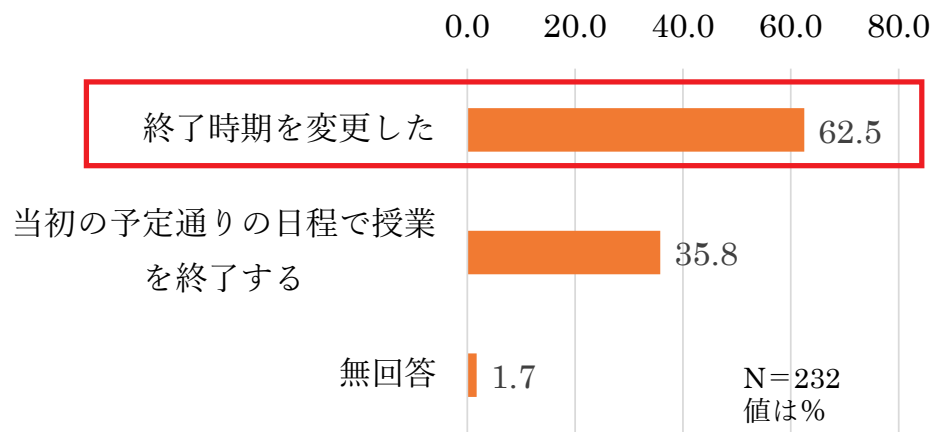
# 前期授業の開始・終了時期



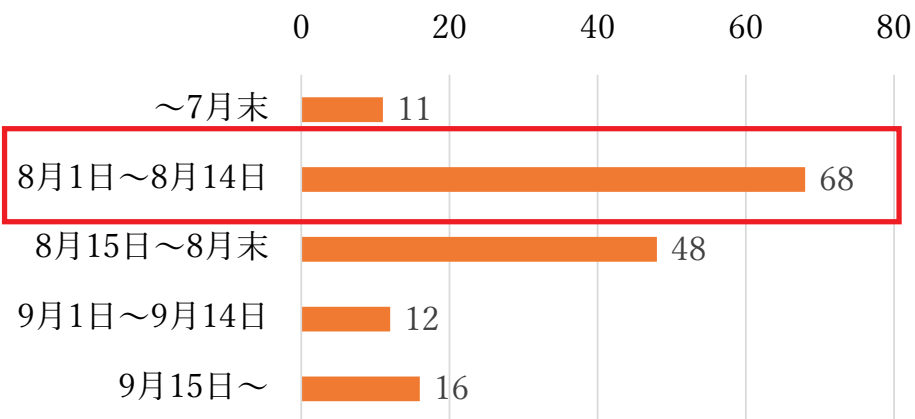
図表3-1 前期授業の開始



図表3-2 前期授業の開始時期（度数）

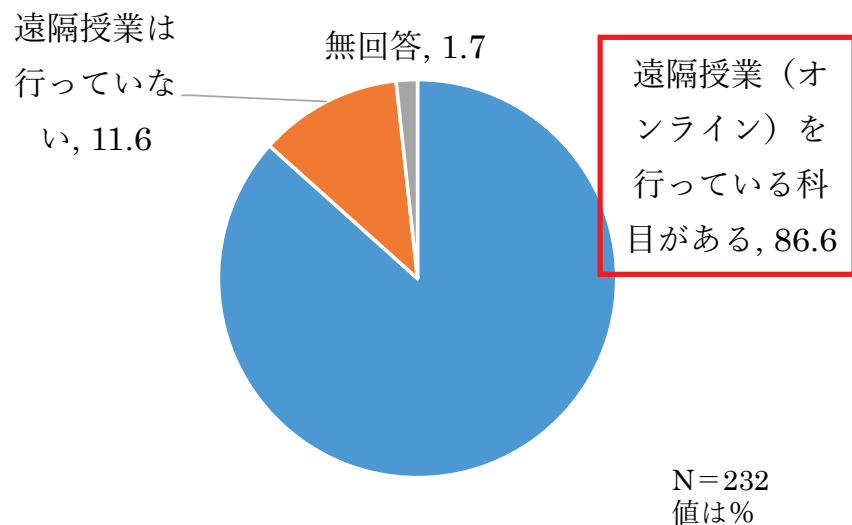


図表3-7 前期授業の終了

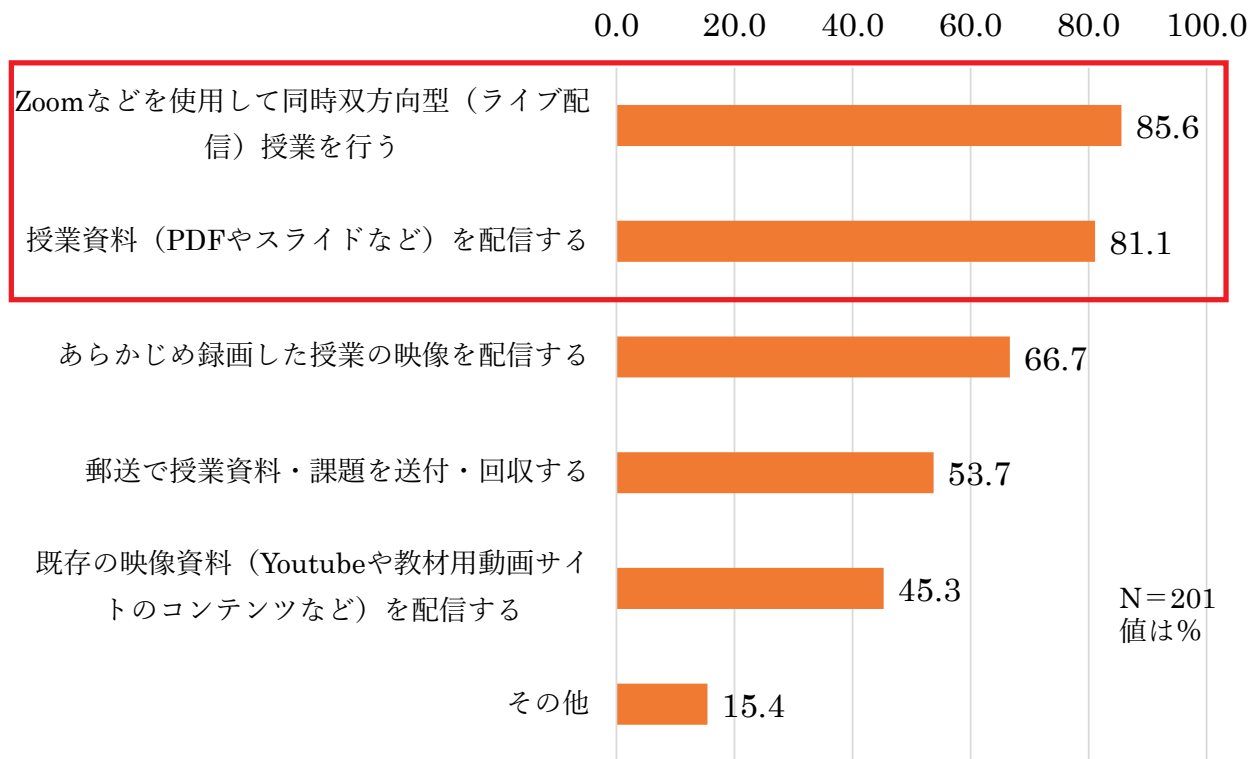


図表3-8 前期授業の終了時期（度数）

# 授業の方法

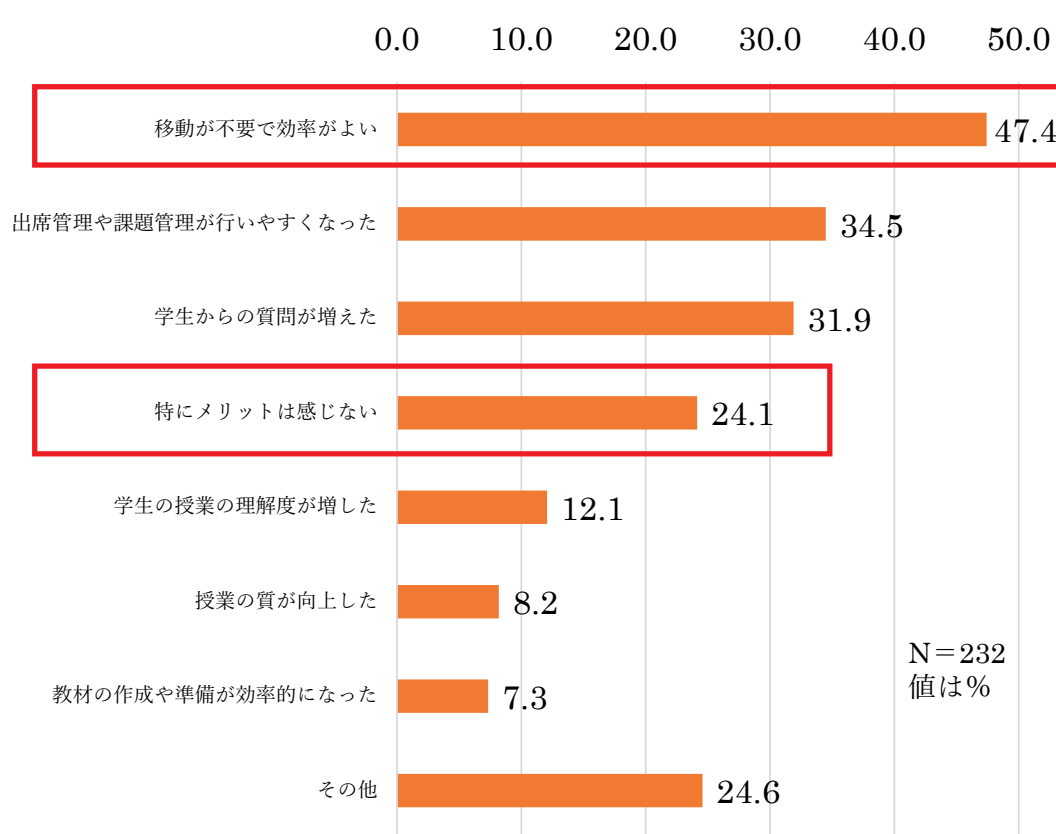


図表3-18 現在の授業の方法

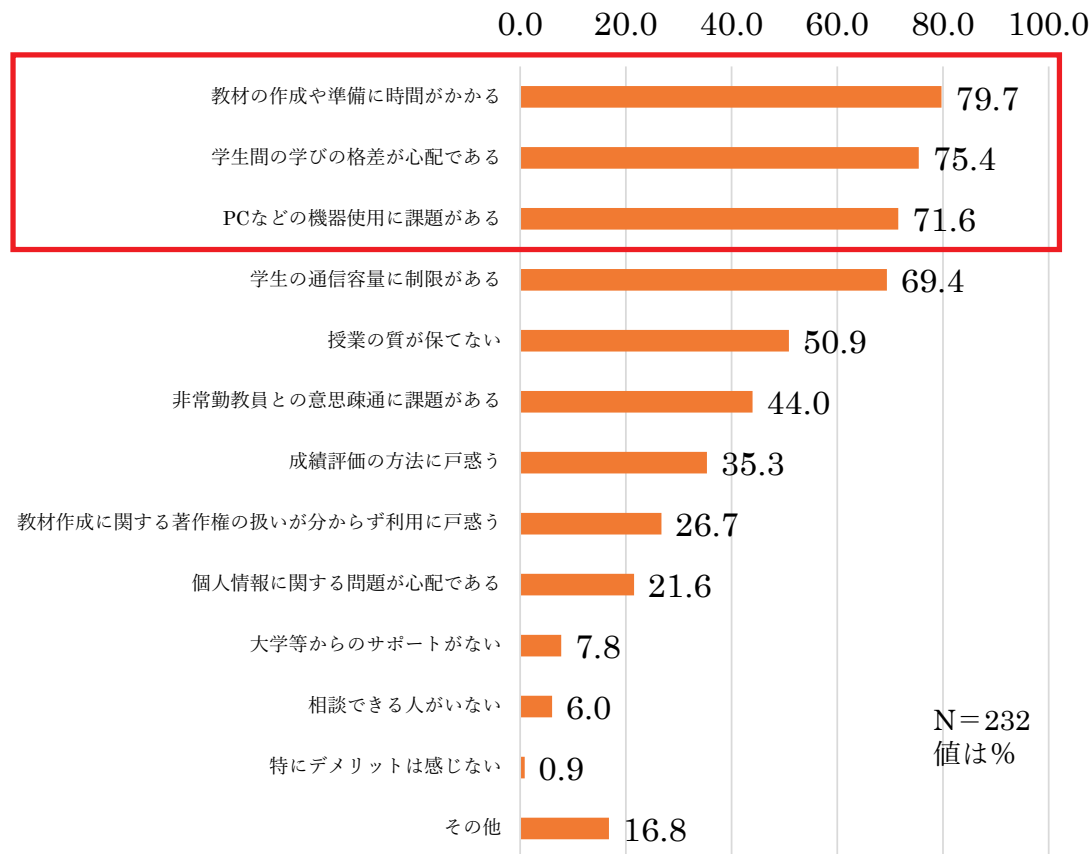


図表3-20 遠隔授業（オンライン）を行っている場合の授業方法

# 教員が感じている遠隔授業のメリット・デメリット

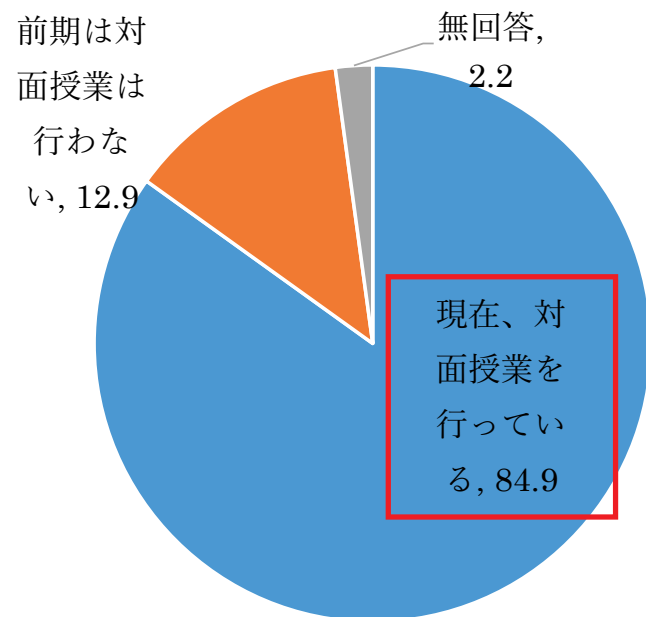


図表3-22 教員が感じている遠隔授業のメリットや新たな気づき

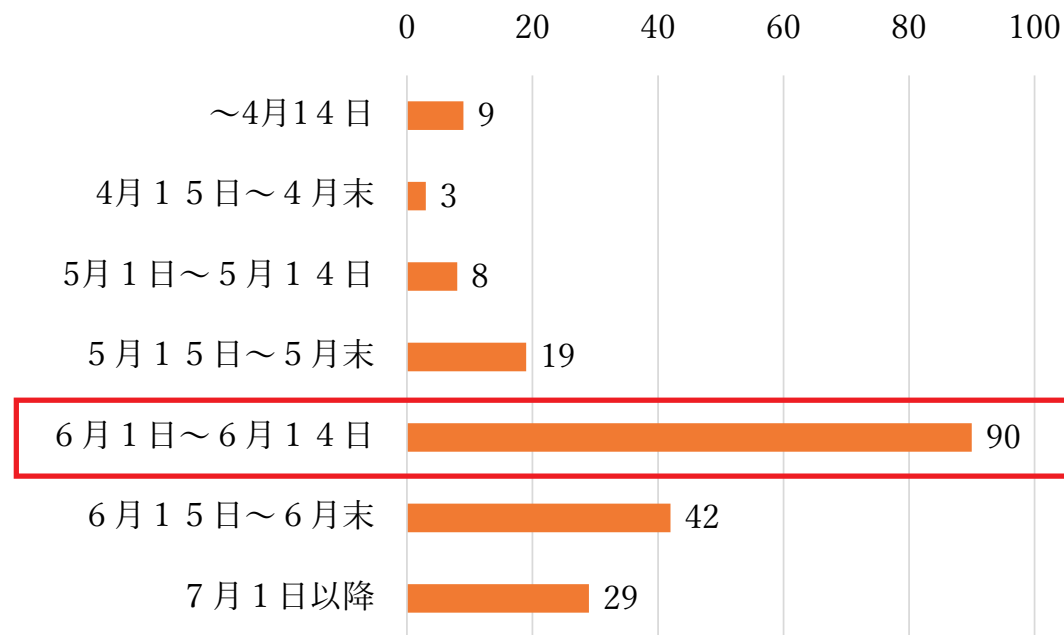


図表3-24 教員が感じている遠隔授業のデメリットや困ったこと

# 対面授業について



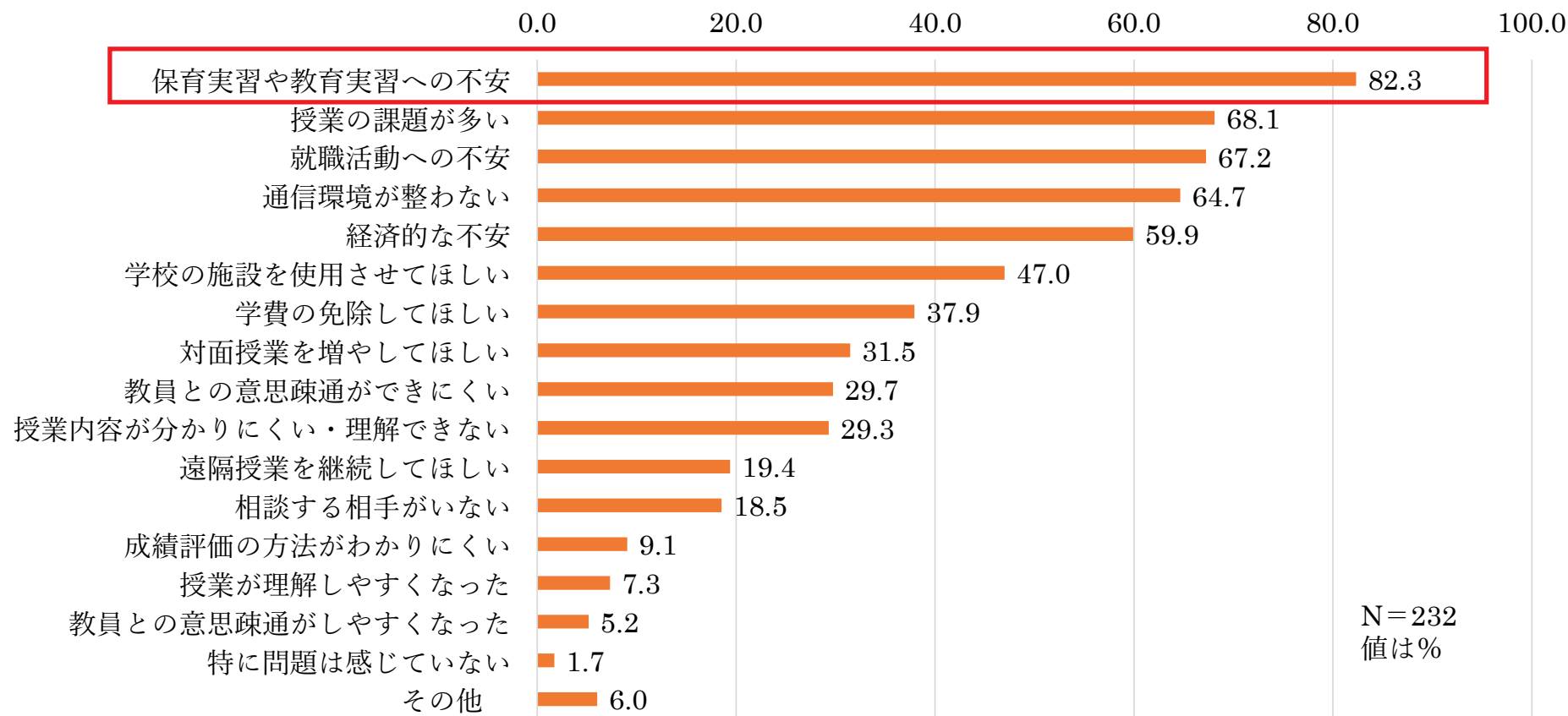
図表3-26 現在の対面授業について



図表3-27 対面授業の開始時期（度数）

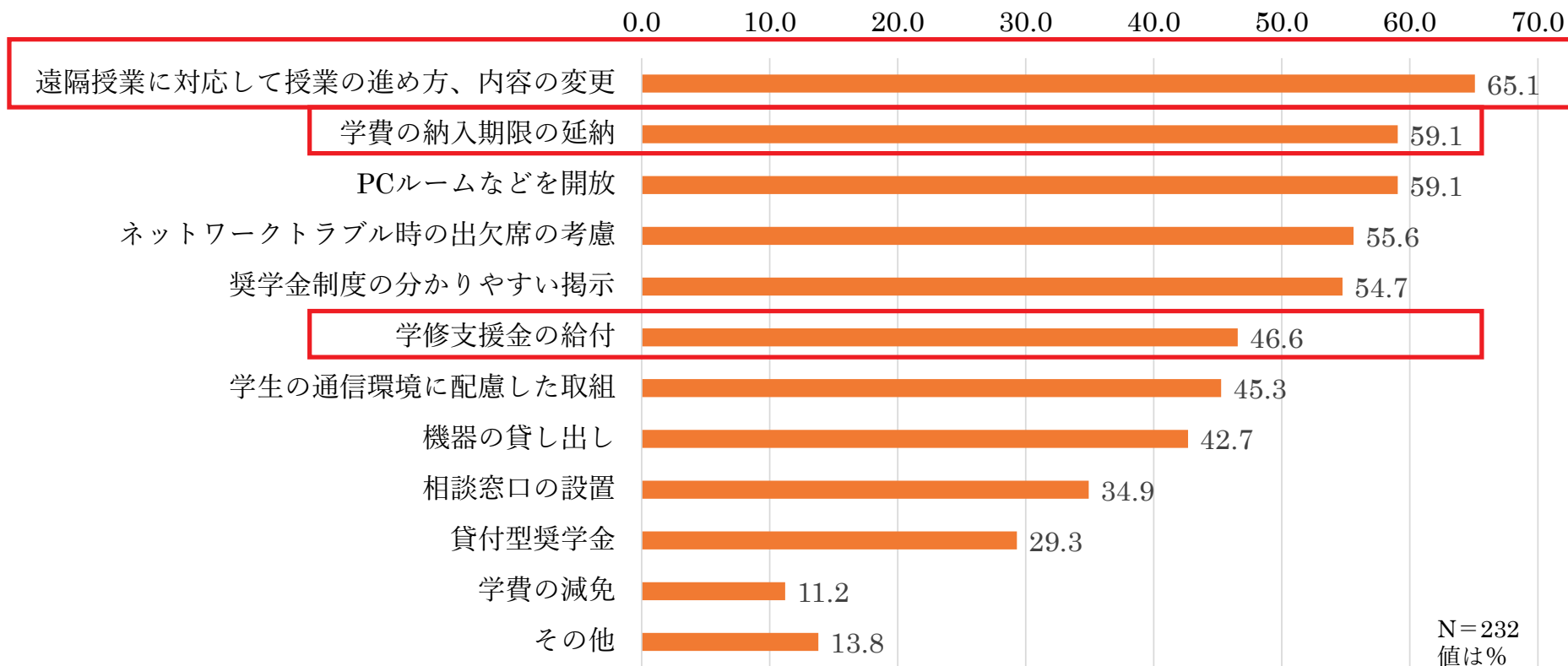


# 学生から多く寄せられた意見



図表4-7 学生から多く寄せられた意見

# 学生への支援について



図表4-9 学生への支援

# 中央情勢報告

全国保育士養成協議会 常務理事

矢藤 誠慈郎

(和洋女子大学)

# 報告の内容

- 1 保育士養成研究所の体制
- 2 保育士養成の諸課題と研究所の事業内容
- 3 研究所の研究及び研究助成等
- 4 研究所が行う研修
- 5 研究所による情報提供等
- 6 保育士養成倫理綱領

おわりに

# 1 保育士養成研究所の体制

- **所長**（本会会長）
- **副所長**（研究主担当、研修主担当、情報主担当、評価・認定等）
- **常務理事**（保育士養成等専門業務担当）
- **研究員**
- **保育士養成専門委員会**…保育士養成に関する研究事業、研修事業、情報、認定・評価等の業務のあり方について協議、小委員会設置も
- **保育士養成審議委員会**…所長の諮問等を受け、研究所の業務について審議し、提言

## 2 保育士養成の諸課題と研究所の事業内容

- **保育士養成倫理綱領の策定**： 令和2年6月の総会において採択  
現在、ハンドブック作成に向けて検討中
- **実習指導者認定講習**： コンテンツ作成中  
8月頃と3月頃の年2回実施。令和2年度は3月のみ実施予定⇒COVID-19拡大により中止
- **階層別保育士資格取得システムの検討と提言**：  
各校種の良さを生かしつつ資格の階層化を図る  
幼免上進制推進を踏まえて
- **実習施設の本会会員加入**： 保育・福祉現場との協働の推進のため  
具体的な手続等について検討していく

### 3 研究所の研究及び研究助成等

- 厚生労働省 **子ども・子育て支援推進調査研究事業**の実施
  - ◆ 令和元年度「指定保育士養成施設卒業者の内定先等に関する調査研究」
  - ◆ 令和2年度「保育士養成施設における保育士の魅力向上に関する調査研究」

### 3 研究所の研究及び研究助成等

- **ブロック研究助成**

- ◆ 保育士の質の向上及び児童福祉の向上に寄与する保育士養成に関する研究  
各ブロックを通して申請、各ブロック30万円

- **学術研究助成**

- ◆ 特に重視される保育士養成に関する研究事業（以下が本年度の課題）の促進を図る  
本会が定める研究課題一覧から選択して応募、1件につき200万円以内、総額400万円以内
  - ① 実習施設との連携・協働に関する研究
  - ② 実習指導体制の実態に関する研究
  - ③ 実習における危機対応等に関する研究
  - ④ 養成校における現職研修への取り組みの実態に関する研究
  - ⑤ 4年制養成校のカリキュラムの効果に関する研究

⇒積極的に、かつ**研究費の適正使用**を含む**研究倫理**を踏まえた適切な申請と報告を（科研費を参照）



## 4 研究所が行う研修

- **保育士養成研究所研修会**（例年は年3回）

11/22(大阪)⇒中止、 2/21(東京)⇒オンライン開催について検討中  
今年度は学生支援をテーマに（予定）

- **実習指導者認定講習**（前述）

令和2年度開始予定

## 5 研究所による情報提供等

- **保育士養成研究所報告書**

  - 指定保育士養成施設実態調査の報告

  - 学術研究助成・ブロック研究助成の成果(概要)報告

  - 研修会報告 等

- **指定保育士養成施設実態調査(ルーティン調査)**

  - 自律的な専門組織として、子どもの最善の利益のために養成教育の質の維持・向上を図る

  - 取り組みのモデルとなる好事例の交換

  - 課題改善の促進

## 6 保育士養成倫理綱領

### 前文

指定保育士養成施設の全ての教職員等（以下「教職員等」という）は、**児童の最善の利益を保障できる保育士を養成するために最大限の努力をする。**この倫理綱領は、教職員等が、自らの**専門性を向上させ続けるための省察の指針**を提供するものである。教職員等はこの倫理綱領を遵守し、かつ教職員等間で共有しながら保育士養成を行い、もって児童福祉の向上に寄与する。

なお、この倫理綱領は、指定保育士養成施設の全ての教職員が**遵守することを期待されるものである。**

## 6 保育士養成倫理綱領

### 価値

#### ①個人の尊厳

教職員等は、学生、保育士、同僚、そして児童とその保護者等がかげがえのない存在として尊重する。

#### ②人間の成長

教職員等は、学生、保育士、同僚、そして児童とその保護者等が成長する可能性をもつ存在であると認識する。

#### ③貢献

教職員等は、自らの専門性の向上に努め、保育士養成に貢献する。

#### ④多様性

教職員等は、学生、保育士、同僚、そして児童とその保護者等における多様性を尊重する。

# 6 保育士養成倫理綱領

## 倫理的責任

### I 学生に対する倫理的責任

- I-1 教職員等は、学生一人ひとりの学びに対する意思を尊重し、個々に応じた関わりに努め、学生の自己決定の機会が提供されるようにする。
- I-2 教職員等は、学生に対して「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の中の「教科目の教授内容」及び「保育実習実施基準」を踏まえて授業及び実習を行う。
- I-3 教職員等は、学生に対して保育士養成課程に関わる諸分野の最新知見を教授できるように自らの知識及び技術を絶えず向上させる。
- I-4 教職員等は、学生が主体的・対話的で深い学びができるように授業方法を工夫し、自己評価を行う。
- I-5 教職員等は、学生に対してシラバス等を通して当該科目の目的、到達目標、授業内容、授業計画、評価方法、評価基準等を事前に明示し、適切に履行する。
- I-6 教職員等は、学生に対して、指導能力が充実している施設への実習配当を行うように努める。

## 6 保育士養成倫理綱領

### I 学生に対する倫理的責任

**I-7** 教職員等は、実習施設について、その実習内容に関して検証を行い、学生の学ぶ権利の保障に努める。

**I-8** 教職員等は、実習施設において学生の学ぶ権利が保障されていないことが明らかになった場合、所要の措置を講じる。

**I-9** 教職員等は、学生のニーズや能力、施設の状況に応じた進路指導を行う。

**I-10** 教職員等は、学生との関係を自己の利益のために利用しない。

**I-11** 教職員等は、学生に対してセクシャルハラスメント、アカデミックハラスメント、パワーハラスメント等の人権侵害を行わない。

**I-12** 教職員等は、学生のプライバシーを最大限に尊重するとともに、学生に関する情報の取り扱い及び安全管理を適切に行う。

# 6 保育士養成倫理綱領

## II 実習施設に対する倫理的責任

**II-1** 教職員等は、質の高い保育士養成を実現するために実習施設と連携・協働する。

**II-2** 教職員等は、保育実習の方針、内容、期間、実習指導の内容等について明確にし、実習施設と共有する。

**II-3** 教職員等は、保育実習の目的を達成するために施設長や実習指導者等と緊密に連携して学生の指導を行う。

**II-4** 教職員等は、一定の要件を満たした学生に実習の履修を認め、必要に応じて実習施設に対してその要件を説明する。

**II-5** 教職員等は、学生が実習に参加することが適切であると認められない場合、児童の最善の利益を保障するための必要な措置を講じる。

**II-6** 教職員等は、自身及び学生が実習を通して得られた実習施設に関する情報等の取り扱い及び安全管理を行う。

## 6 保育士養成倫理綱領

### Ⅲ 所属機関及び同僚に対する倫理的責任

Ⅲ-1 教職員等は、所属機関の理念や教育方針を踏まえて授業や学生指導を行う。

Ⅲ-2 教職員等は、所属機関の同僚と連携・協働して授業や学生指導等の業務に取り組む。

Ⅲ-3 教職員等は、同僚を尊重するとともに、同僚に対してセクシャルハラスメント、アカデミックハラスメント、パワーハラスメント等の人権侵害を行わない。

Ⅲ-4 教職員等は、所属機関や同僚がこの倫理綱領に定める倫理的責任を認識するよう働きかける。



## 6 保育士養成倫理綱領

### IV 児童と家族、社会及び保育現場に対する倫理的責任

**IV-1** 教職員等は、質の高い保育を实践できる学生の育ちと保育士の育ちを支えるために最大限の努力をする。

**IV-2** 教職員等は、家族や社会に対して、児童期の重要性と質の高い保育の重要性について啓発する。

**IV-3** 教職員等は、保育士の専門性向上及び社会的地位の向上のために自らの専門性を活用し、その力量を発揮する。

**IV-4** 教職員等は、実践現場において児童とその保護者の権利を侵害する行為に対して、適切な方法でその改善を図る。

## おわりに

- 保育士不足から、質を下げてでも有資格者を増やすべきという議論も
- 一方でそのことが保育士という職業の地位と魅力を低下させる恐れ
- 個々の養成校の問題を超えた、業界全体の問題
- 養成の質の向上に真剣に取り組むべき局面
- 養成校全体の連携・協働が求められる
- 養成校と保育・福祉現場との対話と協働が求められる

## おわりに

- COVID-19対応において、情報の有無や養成校の姿勢によって養成教育の質に差が出る懸念
  - ⇒ 当会として情報提供やQ&Aの発出及び実態調査を行った。
  - ⇒ また迅速な情報提供等に関連して、メーリングリストへの全会員校の参加を進めた。